

1997年8月

# いわゆる『援助交際』に対する女子高校生の 意識及び背景要因の分析研究

研究代表者 福 富 譲

(東京学芸大学教授)

(財) 女性のためのアジア平和国民基金

## 目 次

I. 研究の背景と目的	-1-
II. 研究方法	-4-
II-1 面接の方法と面接の対象者	-4-
II-2 質問項目	-4-
II-3 被面接者の属性	-7-
III. 面接結果と考察	-9-
III-1 面接結果の要約	-9-
[第1回 要約]	-9-
[第2回 要約]	-12-
[第3回 要約]	-15-
[第4回 要約]	-17-
[第5回 要約]	-20-
[第6回 要約]	-22-
[第7回 要約]	-24-
[第8回 要約]	-28-
[第9回 要約]	-31-
[第10回 要約]	-33-
[第11回 要約]	-36-
[第12回 要約]	-37-
[第13回 要約]	-41-
[第14回 要約]	-44-
[第15回 要約]	-46-
[第16回 要約]	-48-
[第17回 要約]	-51-
[第18回 要約]	-53-
III-2 面接結果の考察	-57-
III-2-1 『援助交際』をどのように見ているか	-57-
(1) 『援助交際』とは—女子高校生たちの『援助交際』に対する定義	-57-
(2) 『援助交際』と『売買春』について	-57-
(3) 女子高校生の『援助交際』について	-59-
III-2-2 『援助交際』の動機について—なぜ『援助交際』をすると 思うか	-61-
III-2-3 男女平等に対する女子高校生の意識	-63-
IV. まとめと提言	-65-
あとがき	-67-

## I. 背景と研究の目的

### I-1 いわゆる「援助交際」をめぐる今日的状況

1980年代前半頃から『援助交際』という言葉がマスコミに現れ始めた。当初は、いわゆる性風俗の世界での「愛人契約」を結ぶことを指していたが、現在では、女子中学生や女子高校生が、相手方から数万円を受け取り、性的行為を行ったり、デートをしたりすることを指して使われていることが多い。『売買春行為』を含む、性の商品化による関係を『援助交際』と表現することに、「売買春の実態や、その罪責感を覆い隠す言葉」との批判がある。またこの用語は、マスコミで頻繁に用いられるわりに、そうした行為を行う女子中学生、女子高校生の間ではあまり用いられておらず、マスコミの乱用がかえって男女中学生、高校生を刺激しているとの指摘もある。一方、年少の少女たちが巻き込まれる、金銭と交換する性的サービスの多様性を表す言葉としても用いられている。『援助交際』とは、その使い方自体に、問題をもつ用語ではあるが、本調査では、便宜的に「いわゆる『援助交際』」としてこの表現を『 』に入れて用いることにし、これをめぐる女子高校生の意識を中心に検討を行うこととした。

近年、デートクラブ、テレクラ、ツーショット、ブルセラショップなど、性産業の形態が多様化し（テレクラ、ツーショットは、いずれも電話で男女がおしゃべりをする機会を与えるものであるが、男性客のほとんどは性的関係を期待し、売買春目的に利用されている。ブルセラショップは女子中学生、女子高校生の下着などを売買する店をいう）、またポケベル、PHS、携帯電話など、個人が通学途中でも利用可能なメディアが発達、普及して性産業へのアクセスが容易になった。その中で、女子中学生、女子高校生と性産業との関わりが特に目立ってきた。例えば、日本PTA全国協議会の『子供の生活意識・実態調査結果報告書』(1994)によれば、全国の中學2・3年生のテレクラ・ツーショットダイヤルの利用経験の割合は、女子が27.0%、男子が7.6%となっている。一方、1996年の東京都の調査（中学1年生から高校3年生まで1291人が回答）では、『援助交際』の経験者は女子高校生が4.0%、女子中学生が3.8%である。これらの数字は必ずしも正確なものかどうか分からず、氷山の一角に過ぎない。特に『援助交際』については、クラスで女子の3分の1が経験者という高校もあるとの報告もされている。警察庁作成の「テレフォンクラブに係る福祉犯の被害少年の状況」では、1991年頃から「被害少年」数が増加し、1994年には1千人を超えて、3年間で倍増してきている。さらに、1995年には、男性がツーショットダイヤルで知り合った中学1年生女子を殺害するという事件も報じられた。

こうした中、テレクラ規制条例を制定する自治体が出始め、また1996年からは、東京都淫行処罰規定導入の是非に関する再検討が開始された。

### I-2 マスメディアの描く『援助交際』の問題

これら、にわかに活発になった自治体の動き、『援助交際』自体およびその報道の増加、女子中学生、女子高校生への性的欲望や好奇心、「たまごっち」、ルーズソックス、プリントクラブ（これも売買春行為に利用されている）など、少女固有の文化への関心などがあいまって、様々な議論が、様々なメディアを通してなされている。こうしたテーマに新聞が大きな紙面を割き、テレビの深夜番組でも知識人と称する人々によって『援助交際』が討論され、社会学者やルポライターが著作物を著し、雑誌が特集を組んでいる。テレビ

のニュースやワイドショーも女子中学生、女子高校生への直接の取材も含め『援助交際』を取り上げている。

しかし、それらの『援助交際』の描き方や、分析には、全体として女性の人権や、ジェンダーの視点が明確に位置付けられているとは言い難い。むしろ、『援助交際』を報じる際に、ことさらにセンセーショナルな表現や、性的な含みをもたせる表現などをを利用して、女子中学生や女子高校生をさらに性的対象として扱う態度を増幅させる面すら見られる。例えば、いくつか出版されている『援助交際』に関する著作や雑誌の表題、副題、目次などを見ると、「『女子高生』解体新書」（解体という言葉はこの場合、「解剖」であり肉感的、暴力的なイメージを連想させる）、「女子中高生の危険な放課後」、「女子中高生の凄まじい生態」（生態という言葉は、「蟻の生態」など人間以外の生物に用いるのが主要な用法である）、「『性商品』としての女子高生を語る」など。これらは極一部の例であり、同様の傾向が、先に挙げた多様なメディアにおいても数多く見られる。

雑誌、マンガ、アダルトビデオなどのポルノグラフィーの中では、イメージとしての女子中学生、女子高校生が性的欲望の対象として商品化されてきた。それらのポルノグラフィーはもとより、『援助交際』を一見はじめに議論するかに見えるメディアですら、女子中学生、女子高校生の性的人権に対する配慮に欠けているところがある。『援助交際』に関してメディア報道が作り出す女子中学生、女子高校生の描き方は、実体としての女子中学生、女子高校生を取り巻いて、彼女らの自己イメージの形成に影響を与えながら第二、第三の性的搾取をも構成していると言えよう。

### I - 3 『援助交際』と男女平等の視点

『援助交際』に関しての女子中学生、女子高校生のインタビューには、「本人同士の合意の上だから良い」という意見が見られる。また、そうした考えが、一般的にも聞かれることは珍しくない。

しかしながら、『援助交際』は、性的行為であれ、デートであれ、金銭と引き換えに性的サービスを提供するものであり、本質的に『売春』と類似の行為である。また、年長の男性が、経済力を背景に、年少の女性に性的欲求を満たさせるという点において、経済的にも性的にも非対等な関係を前提としている。ここでは、本人たちの自覚はどうあれ、経済を媒介にして一方が他方を性的に支配するという支配－被支配関係が成り立っている。こうした関係の中で強姦や脅迫など、少女が受ける被害の深刻さは、男女の、そして大人と子どもの不均衡な力の関係を反映したものと言えよう。『援助交際』における非対等な関係は、個人と個人との間の偶然的な関係ではなく、性別ならびに年齢で区分される社会集団間の関係でもあり、社会、経済、文化的な男女間の格差に由来するものである。それはとりわけ、女性の性的な自尊感情の剥奪、性と生殖の健康と権利の侵害を含め、まさしく女性差別的な社会の背景の中で生じる現象と言えよう。

『援助交際』を検討するに際して、このような認識に立って、女性の人権、子どもの人権の視点を欠くことはできない。女性の人権の視点から言えば、これまでの売春防止法が売春だけを問題にした女性処罰法であったという批判がなされてきたが、これを受け、『援助交際』についても議論の対象を女子中学生、女子高校生に偏らせず、むしろ『子ども買春』という概念を中心に据え、買春男性の行為や意識等を分析、吟味することが必要

であろう。女性であり、子どもである女子中学生、女子高校生に关心が集中すること自体、女性差別的な、子ども差別的な意識の反映にほかならず、また、子どもの性的自己決定をめぐる議論を根本から歪める契機となっている。

『援助交際』の拡大は、買春行為の対象の低年齢化をも招いている。そのため、今後の潜在的、顕在的な被害の拡大、悪質化も見込まれる。『援助交際』の現状を多面的に把握し、その被害の拡大を防ぎ、予防するための対策を講じることは、女性であり、子どもである女子中学生、女子高校生の人権を擁護するための急務である。本調査は、こうした問題意識に基づき、『子ども買春』としての『援助交際』に論点を焦点化することの必要性を認識しながら、当面、女子高校生の『援助交際』に関する意識を明らかにすることを目的とした予備的調査である。

## II. 研究方法

### II-1 面接の方法と面接の対象者

首都圏に在住している女子高校生30名を対象に、複数の面接者が聞き取り調査を実施した（1回の面接に際して、3名の面接者が1～4名の女子高校生を対象とした）。質問の内容はあらかじめ検討して設定したが、特定の質問内容に対してさらに深めた質問が可能な場合は、全てを聞き出すことよりもその問題について質問を掘り下げるにした。その意味で、今回の面接は半構造化された面接である。

面接対象の選択に際しては、可能な限り広範な女子高校生を選択する事を心掛けたが、時間的制約もあってランダムなサンプリングによるものではない。従って、今回の調査結果は、女子高校生の全体像を代表するものとは言えない。この点に関しては、今後ランダム・サンプリングに基づく大量データの分析が必要となる。しかし、限られたサンプルであったとしても、現代の女子高校生のいったんを伺い知ることができ、さらに今後の広範な対象の調査のための基礎資料として有効な結果を得る事が出来た。

さらに、3～5回の面接ごとに、結果について検討（ケースカンファランス）した。これにより、次の回の面接内容を深める事が出来た。結果の検討に基づいて、3名の女子高校生に対して再度面接を試みた（6回目の面接は1回目の面接対象のうちの2人、15回目の面接は9回目の面接対象者の再面接である）。

面接内容は全て録音し、面接終了後にテープ起こしにより、文字情報に変換した。各面接記録は付録資料として掲載されている。

### II-2 質問項目

#### 学校関係の質問項目

学年

私立・公立

男女共学・別学

学校所在地・・・通学の方法（特に通学途中に盛り場があるか）

学校に対する評価

「学校は楽しいか」・・どんなところが楽しいか、おもしろくないか

「校則について」・・校則に対する不満

　　どんな校則があるか・・化粧・パーマ・服装等

「授業について」・・ついていけない授業があるか

教師に対する評価

「気軽に話せる教師はいるか」

「教師の授業態度について」・・熱意が感じられるか

「暴力をふるう教師がいるか」

「教師の男女平等意識・態度」・・男女の生徒に対して異なった対応があるか

　　役割分担で男女教師が異なっているか

「教師のセクハラ」・・女史生徒に対するセクハラ

「女性の教師と男性の教師について」

## 家庭環境の質問項目

家族構成・・父・母・兄弟姉妹・自分の位置・核家族か拡大家族か

父母の職業・・父親の職業については、可能な限り

    母親の職業については、フルタイムかパートタイムか

    パートタイムの場合には、いつ頃から始めたか

個室の有無・・個室を持っている場合には、その管理状況について

家族全員が顔を合わせる機会があるか・・家族全員での食事等

父母のしつけ

    門限の有無

    女の子・男の子だからといった性別しつけが厳しいか

    男の兄弟とのしつけの違いがあるか

    食事の準備・買い物・後片付け等に性別役割があるか

家庭に対する評価

    家は楽しいか

    父親と母親でどんな役割分担をしているか

    父親が家事をどの程度分担しているか

父母の生き方に対する見方

    母親に対する評価

    父親に対する評価

    父母の生き方をどのように見ているか

    将来、自分の家庭生活のモデルとしているか

    父母の夫婦仲

## 交友関係についての質問項目

友達の数・・同性・異性の友達

    どこで知り合ったか

    親友と呼べる友達がいるか

    親友とはどんな友達

    どこで知り合ったか

友達と普段どんなことをして遊ぶか・・・ゲームセンター、カラオケボックス等

好きな男の子

    個人的に付き合っている男の子の有無

    どんなタイプが好きか

    どんなことをしているのか

        性意識や性的経験（避妊をしているか）の実態を質問する

リプロダクティブ・ヘルス・ライツについて

    性の自己決定・・イヤと言えるか

        好きな男性から性行為を求められた時に

        生む自由・生まない自由

    自分の体をどのように大切に考えているか

        自己の生理をどのように管理しているか・・基礎体温

- ピルの副作用・・・女性のみ  
中絶・出産に伴う危険性の認識
- 経済生活や日常生活についての質問項目
- アルバイト経験の有無  
お小遣いの額・・・どんなことに遣っているかを含めて  
ブランド志向について・・どんなブランドを好むか、買い物する時にブランドを考え  
るか
- 情報環境についての質問項目
- メディアの利用状況  
ポケベル・P H S・携帯電話の有無  
情報の収集方法について  
どんな雑誌を読んでいるのか  
T Vで良く見る番組（好きなT V番組）  
好きなタレント等も
- 将来の生き方について
- 進路・・高校卒業後は就職か進学か  
進学の場合には、専門学校・短大・4年制大学か  
どの方面に進もうとしているか  
仕事・・どんな仕事をしたいか  
結婚・出産後の仕事の継続について  
結婚・・結婚のイメージ  
いつ頃、結婚したいか  
将来・・将来の生き方についてのイメージ  
将来の生き方についてモデルとなる人がいるか  
加令・・年を取ることについての意味・・男女で異なるか  
自分が30歳、40歳になった時のイメージ
- 自己評価について
- 精神的健康・・自分をどれくらい大切に思うか  
自尊感情・・・これだけは人に負けないとと思うことは  
自分はどうしようもない人間だと思うことは  
公的自意識・・人から見られている自分を意識するか  
どんな時に恥ずかしいと思うか  
自分の外見を気にするか  
自分の言ったことを他人がどう受け止めるか気になるか
- 援助交際について（可能な限り、細かな点に触れる）
- 援助交際の定義について  
高校生と援助交際について  
周囲の友達で援助交際を経験しているひとがいるか  
自分もしてみたいと思うか・・罪悪感はないのか  
援助交際をする場合の動機について

援助交際をする場合の手段は

援助交際を求めるおとなについて

今時のおとなに対する考え方・・・「おやじ」「おばさん」観

男性一般・女性一般に対する考え方

東京都の条例化の動きをどう思うか

特に、大人の処罰規定について

援助交際に関するマスコミの扱い方

特に、高校生の援助交際といった表現について

援助交際と売買春について

援助交際は、売買春か

肉体を金品で売買することの是非

どうして売買春が無くならないのか

男女平等について

男女平等とは

今の社会は男女平等の社会だと思うか

どうしたら男女平等の社会にできるか

女性であることがイヤに思う時があるか

それはどんな時か

もう一度、生まれ変わることができるとしたら、男の子か女の子か

それは何故か

女の子（男の子）のどういうところが良いと思うか

女らしさ・男らしさをどう考えるか

女らしい女性・男らしい男性とは

「おとこは仕事・女は家庭」という考え方をどう思うか

性別によって仕事を分業することについて

性の商品化という言葉を知っているか

女性が商品として扱われることについて

ミスコンについてどう思うか

援助交際と男女平等との関連について

どうして、今時、援助交際が社会的な話題になっていると思うか

### II - 3 被面接者の属性

今回の面接対象となった女子高校生の基本的属性および一般的な意識は、次の表1に示されている。表において1Aは、第1回目の面接で女子高校生Aを表している。空欄部分は、その回の面接において、聞き出す事ができなかったものである。

表1 被面接者の属性

	1A	1B	1C	1D	2A	2B	3A	4A	4B	5A	7A	7B	7C	8A	8B	9A	10A	10B	11A	12A	12B	13A	13B	14A	14B	16A	17A	17B	18A	18B
共学・別学	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	
私立・公立	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
盛り場ある・なし	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
バイトは禁止・許可					1		0			1				0	0	1	1	1	0			1	1			1	0	0		
部活に入っている・いない					1	1	1	1	1	0	0	1	1	1		1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	
進路は決めている・いない	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	
大学・短大である・ない	0	0	0		1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
専門学校である・ない	1	1	1		0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	
就職である・ない	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
父母ともいる・いない	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
異性の兄弟がいる・いない	1	1	0		1	0	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	
同性の兄弟がいる・いない	0	0	1		0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	
母は仕事している・いない	1			1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	
門限ある・ない						1	1				0	1	0	0			0	0									1	0	0	
家事をやっている・いない		1			0	0	0	0	0			1						0				0	1		1	1		1		
父は家事をする・しない						0				0	0	1	1									1	1			0				
現在彼氏がいる・いない	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
今までに彼氏がいる・いない	1	1	1		1	1	1	1	1	1		1			1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
ポケベルある・なし	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	1	1	
PHS・携帯をもっている・いない	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	
お小遣いは8千円以上・未満	1	1	1		0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	
現在バイトをしている・いない	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
今までにバイトをしている・いない	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	0	0	0		
女性であることを肯定する・しない	1	1								1	1														0	0				
校則は厳しい・厳しくない	1	1	1		1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	
話せる教師がいる・いない	1	1			0	0	0	1		0	0	0		0	0	1	0	0	0	1	1			0		1				
教師のセクハラある・なし	1	1				0														1	1	1								
授業は楽しい・楽しくない	0	0	0			0				0	0	0	0				0	0	1	1	0	1	0	1		1	0		1	
部活は楽しい・楽しくない						1	1			1						1	0	0	0	0	1			1	1					
友達は楽しい・楽しくない	1					1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1		0	0	1	1			
仕事のイメージを持っている・いない	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0		
家族は顔を合わせる・合わせない	0	1	0	0	0	0				0	1	1	0	0	0	1	0						0	1	1					
父母は仲良い・悪い	1						1	0	0	1	1	1	1				1					1			1		1	0	1	0
性別しつけがある・ない		0		1						0	0	0					1	0	0			1	1		1		0	1	0	1
男女差別を感じたことがある・ない					0	0	0	1	1	0	0	0	1	1				0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1		
周囲が援助交際をしている・いない	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	

### III. 面接結果と考察

#### III-1 面接結果の要約

##### [第1回 要約]

面接場所：八王子

被面接者：A…高校2年生、黒髪、制服。

B…高校2年生、茶髪、私服（スーツ）。

C…高校2年生（18歳）、茶髪パーマ、私服。

D…中学3年生、Aの幼なじみ

#### 学校環境

男女共学

学校所在地…京王線沿線

学校に対する評価…「友達がいるので、学校は面白い。」「勉強は面白くない。」「勉強自体が面倒くさい。」

校則について…パーマ、ピアスは許可。髪を染めることは禁止。髪を染めていると体育の授業に出席できない（他の授業は出席できる）。そのため、単位が危なくなると、彼女達は髪を黒く染める（Aの髪が黒いのはそのため）。

教師に対する評価…担任の先生は何でも話せるが、話したことがすべて周囲に伝わってしまうので、信頼はしていない。

#### 家庭環境

A：両親と弟。母親は親戚の喫茶店で働いている。父親はうるさくいうことはないが、母親の方はうるさい。父親に対しては特に思うことはないし、仲は悪くはない。両親の夫婦仲も悪くないと認知している。家族と一緒に食事を取ることはない。

B：両親と弟。

弟と異なったしつけがなされることはない。家族と一緒に食事を取ることはない。

C：両親は離婚。現在は父親、妹と暮らしている。日曜日と月曜日は夕飯を作り、妹のお弁当作りもしている。食事は家族と取るし、彼氏を家に呼んで一緒に食事をすることがある（そのときはいつも盛り上げ役である）。洗濯や掃除も行っている。ちゃんと食を作り、ちゃんと学校に行けば、親にうるさく言われることはない。

#### 交友関係

・Cは友達がいるから学校が面白いと言う。「親友はいるか」という質問に対しては、しばらく沈黙があった後、Aが「学校でよく一緒にいる」と答える。親友の定義については、聞くことができなかった。

・友達とはカラオケや買い物に行く。お金があるときには渋谷、新宿などに出掛け、洋服を買う。・好きな男性のタイプは…

A：芸能人だったら木村拓哉。

B：優しい。外見は贅沢を言わない。

C：（男らしいのは）守ってくれる人。

・全員に彼氏がいる。

A : 17歳のブー太郎。（地元の人で紹介という形で知り合う）

B : 17歳の高校生。

C : 19歳の高校生。暴走族にいる頃に少年院に入り、17歳のときにCと同じ高校を受け直して入学。彼氏と一緒にいるときは家にいることが多い。

・性に関して

A : 彼氏以外の人とHをすることがある。しかし、もうやめようと思っている。いつも生理が来なくて焦ることがある。学校では彼氏との子どもを妊娠して退学し、結婚、出産する人がいっぱいいる。彼女たちも常に妊娠する可能性があるということを認識していて、避妊のケアはしている。しかし、基礎体温などの自分の体の状態をコントロールはしていない。性に関する情報は、友達からなんとなく入ってくる。学校の保健の授業もあるが、話としては分かるがよくは分からなかつた。

経済生活

・お小遣いの額は、アルバイトの経験は…

A : 1ヶ月1万円。足りないので学校が終わってから5時から10時までコンビニ（時給700円）でアルバイトをしている。4万円くらいを稼ぐ。3時間で1万円を稼げるパーティーコンパニオンのアルバイトをしたこともある。

B : 1ヶ月1万円。

C : 1ヶ月3万円。家事をしているので、高めにもらっている。アルバイトはしていない

\*3人ともすぐになくなってしまうと言う。

・お金の使い道は洋服、化粧品。ブランド品はチェックする。

情報環境

全員ポケットベルは持っている。BはPHSも持っている。Aは携帯も買いたいがお金がないので買えない。

将来の生き方

A : 動物が好きなので、卒業後はトリマーの専門学校に進む。

B : メイクの専門学校に進み、結婚後も仕事を続けたいと考えている。そのことで現在彼氏ともめている。彼氏は彼女に家で家事をしてもらいたいらしい。だが、彼女としては自由にやりたいし、年を取ってもいろいろな世界を見ていたいと考えており、「男は仕事、女は家庭」という考え方にはいやだと思っている。

C : 美容師の専門学校に進み、結婚後、出産後も仕事を続けたいと考えていられる。手に職を持つことで、親から認められることができる。Bと同様に家に縛られるのはいやで、年をとっても外の世界を見たいと思っている。彼氏に「俺が養う。お前は俺の妻だ。」と言われると、ちょっと嬉しいが、現実的に考えると、縛られる方が多いと感じる。また、「松田聖子のような生き方をどう考えるか」という質問に対しては、みんなに迷惑をかけないのならば好きなことをしてもかまわないと考えている。

\*結婚についてはBもCも男の方が結婚を求めるという。結婚し、妻を養うことに「燃えている」（C談）。Cは面接の昨日に彼氏から「籍を入れよう」と言われてい

るが、C本人は嫌がっている。「同棲の方がよくない？結婚よりも。結婚するとさて」（C談）。話の流れから言えば、これは結婚すると家にしばられるから結婚をするのが嫌だと解釈できる。

#### 援助交際について

- ・身近な友達で今、やっている子はいない。
- ・3人とも援助交際をしたことがあるとは言っていない。援助交際についてAはそんなことをしなくともお金は得られるし、「我が身はかわいい」ので、自分はしないと言う。しかし、食事をするぐらいならやっても構わない。やりたい子がいれば勝手にすればよいという考え方である。Bもやりたい子は構ないと考えるが、自分はやりたくない。Cは友達がやっていれば止めると言う。それは相手が暴力団だったり、殺されたりする危険があるからである。しかし、その友達は恐い目にあってもやめない。
- ・Hに関しては、彼氏とするのが一番いいと考えている。
- ・援助交際において女子高校生が金品で売り買いされるということについては、現在では男子高校生もママに買われるるので、男女の不平等とは思えないということである。
- ・オヤジについては3人とも「脂っぽい、汚い、臭い」というマイナスイメージを持っている。援助交際をしているオヤジは気持ち悪く、そんなオヤジとの援助交際は嫌である。若い方がいいと考えている。
- ・現在は援助交際という現象は落ち着いて来ている。Aの後輩のDの中学校では、援助交際をしている人が2人ほどいる。
- ・援助交際を含め女子高校生についていろいろと報道されていることについては、すべての高校生が報道されるような行動をしているわけではなく、一部の行動が女子高校生全体を現しているかのように報道されているので、その他の女子高校生がかわいそうである。自分も一緒にされたくない。高校生というだけで、オバサンにジロジロ見られる。
- ・体を売ることについては、「友達じゃなければ、やりたきややれば」「自分は嫌だ」「体がもったいない」「もっと大事にしなきやいけない」「病気になつたら嫌だ」（A談）

#### 男女平等について

- ・女の子の方が楽だから、生まれ変わるとしたら、女の子にまた生まれたい。いざとなつたら、男の子は働いて稼ぐけれども、女の子は稼ごうと思えば何でも稼げる。（援助交際以外にも。例えばコンパニオン）
- ・「性の商品化」という言葉を聞いたことがある。
- ・風俗については、働く人がいて、客がいるという、コンビニにお菓子を買いにいくのと同じようなこと。一種の仕事としてとらえている。
- ・ミスコンで、女性が品定めされることについては、生まれ持ったものを活かすのだから良いとしている。生まれ持っていない人はかわいそうだけれども。最近では、男性も雑誌などでランキングをつけられるので、特に女性問題としてはとらえていない。
- ・男らしい人というのは守ってくれる人。
- ・自分は女らしくない。（彼氏をぶったりする）

## [第2回 要約]

面接場所：東京学芸大学

被面接者：A…高校3年生

B…高校3年生

\* 2人は同じ高校に通い、この春卒業した。2人を区別するようなこれといった特徴はなく、面接中も片方の意見にもう片方が同意するという形が多かった。服装、化粧などは洗練されているという印象を受けた。

### 学校環境

- ・私立の短大付属の女子高。
- ・（A：府中、B：小平）から西武新宿線を利用する。途中に盛り場はなく、周囲に畠が多い。
- ・「学校生活は楽しかったか」という質問に対して、沈黙の後、笑いが。もっと遊んでおけば良かったと思っている。ちなみに遊び始めたのは高校3年になってから。
- ・校則は厳しく、髪は2つに結わえるか、三つ編。髪を染めることは禁止。スカート丈は膝が基準。普段は短くしているが検査のあるときだけ長くする。検査に引っ掛かると「継続」という処置が取られ、直るまで放課後に呼び出される。靴下は指定のものがある。ピアス、化粧も禁止だが、ピアスは穴を開けてもつけてなければ許される。アルバイトは禁止。
- ・放課後に遊びに行くときは制服のベスト、靴下を着替えて遊びに行く。
- ・部活はAは華道部、Bはパソコン部（2回しか出ていない）。1年生のときは強制的に入らされるが、2年生からは本人の意思に任せられる。
- ・「いい先生がいたか」という質問に対して沈黙。
- ・先生は家庭科、英語などは女の先生であるが、おじいさんの先生が多い。
- ・先生はうるさいと感じ、先生と話すことはあまりなかった。

### 家庭環境

#### ・家族構成

A…父（会社員）、母（専業主婦）、兄（現在20歳で、大学のため家を出ている）  
祖父母。

B…父（自営業）、母（専業主婦、内職）、姉（21歳）。

- ・門限はAが9時、Bが11時。AもBも他の兄弟は自分より門限がゆるい。親のしつけに対して、Aは兄はゆるくて自分には厳しいと感じている。「皿を洗うように母親に言われるが、していない。Bも母親に皿を洗うように言われるがしていない。
- ・家族全員で顔を合わせる、食事をするということは滅多になく、父親とはなかなか会わない（A）。Bは姉となかなか会わない。
- ・父親が家事を手伝うことはない（A）。

### 交友関係

- ・友達と遊びに行くときは新宿の歌舞伎町に行き、グルグル歩き回り、ウインドウショッピングを楽しむ。映画などは見ない。

- ・2人とも彼氏がいるが、もうそろそろ終わりそうな関係（付き合った期間…A：2ヶ月、B：1ヶ月）。ナンパで知り合う。相手は年上である。あまり会うこともなく、会ったときには大した話もしない。車でブラーっと出かける。
- ・理想の男性のタイプは、車を持っていて（車種は問わない）、年上で（大人と感じるし、頼り甲斐があり、リードをしてくれるから）、優しく、明るく、楽しく、遊んでいてそうで一途な人。家も近い方がいい。外見は格好良ければ良いほどがいい。自慢できる彼氏が良い。多少彼氏に縛られた方がいい。結婚する相手はなるべく高収入がいい。女がらみの嘘をつかれるのは嫌。付き合うときにはドキドキ感が欲しく、ドキドキがなくなれば付き合いも終わり。
- ・AもBも男性との付き合いは以前から短く、それは理想が高いということが原因ではないか。・彼氏は一途な方がいいが、自分は気に入った人に声をかけられたら遊びに行く。
- ・彼氏とのセックスでは避妊方法はコンドーム。相手にコンドームをつけるようには言えるが、「面倒くさい」と言われば、つけずにセックスをする。もしピルが解禁になったとしても、薬ということで副作用が恐いので、使用することはないだろうとのこと。基礎体温を測ったことはない。・もし、妊娠をしてしまったら短大に行きたいし、育てる経済力もないので中絶するだろう。しかし、相手に経済力もあり、「生んでくれ」と言われたら気持ちちは揺らぐ。
- ・性についての情報は保健の授業、友達から。
- ・家事をする男性は嫌だと思う。

### 経済生活や日常生活

- ・2人ともアルバイトは某会社の社員食堂（居酒屋）で、運び屋さんの仕事をしている。
- ・時給は900円で、週に3回くらい。月に5万円くらいになるが、仕事を始めたばかりなので、給料はまだ入っていない。
- ・お小遣いは、Aはもらっておらず、Bは月に7000円もらっている。Aはアルバイトを始める前から、お小遣いをもらってないが、その時は貯金をおろしてしのいでいた。
- ・使い道は、洋服（A）、洋服、遊び代（カラオケ）（B）。
- ・足りなかつたら親からもらえるが、自分で稼ぎたいという気持ちがある。

### 情報環境

- ・AもBもポケットベルとPHSを持っている。
- ・友達や彼氏との連絡手段になっている。

### 将来の生き方

- ・この春から短大に進み、保母になる勉強をする。
- ・結婚後は仕事を辞め、専業主婦になるつもりであるが、生活が苦しかったらパートをする。
- ・子どもは好きで、子どもをAは2人（男と女が1人ずついればいい）、Bは3人（順番は男、女、男）欲しいと思っている。Aは20代前半くらいに子どもを生みたい考えている。Bはすぐに結婚したいが彼氏は遊び相手に過ぎず、将来の夫となるかもしれないという考えはない。

- ・結婚が女の幸せだと思う（A）。
- ・子どもには厳しくなく、口うるさくなく、仲良くしたい。
- ・子どもが巣立った後は、パート（表に出ない仕事、裏方の仕事）をしたい（A）。
- ・将来の生き方のモデルとしてAは山口智子を挙げた。山口智子の生き方、さばさばした性格、男性からも女性からも好かれているというところがよい。山口智子の精神的な部分にひかれるのであり、仕事と家庭を両立しているところにひかれているわけではない。
- ・男性も女性も30を過ぎたらおじさん、おばさん。しかし、芸能人についてはこれはあてはまらない（だから山口智子もおばさんのカテゴリーには含まれない）。
- ・おばさんに対するイメージは化粧が濃い、うるさい。自分はああはなりたくないと思う。
- ・女子の就職難についてはずるい社会だと思うが、逆にするくない社会はどういうものかは分からぬ。
- ・生まれ変わるならまた女性。男性は一生働かなきゃいけないが、女性は育児と家事だけよく、おしゃれが楽しめる。
- ・ミスコンについては1位になった人をうらやましく思うことはあっても、ミスコン自体に疑問を持ったことはない。

#### 自己評価

- ・充実しているときは遊んでいるとき、歌っているとき、食べているとき。
- ・自分で自信があるものはない。そういうものを持っていた方がいいとは思うが、持っていないからといって考えるところはない。

#### 援助交際について

- ・オヤジに誘われることもあるが気持ち悪いので断っている。
- ・オヤジには「援助交際しない？」と誘われる。
- ・援助交際の定義ははっきりしてないが、オヤジの側はセックスまで考えている。オヤジと何かをすれば援助交際である。
- ・自分は援助交際はしたくないと考えているが、食事だけならよく、1対1でなければいい。1対1だと断ったときに逆上されると恐いし、オヤジと2人でいると援助交際だと怪しまれるから。・友達には、友達の中で「お金が欲しいから援助交際をしたい」と言っている子もいる。実際にやってるわけではない。
- ・援助交際をしている子に対してはやりたければやればよいという考え方。友達がしても止めることはない。
- ・高校生についてのマスコミの報道については見ても何とも思ったことがない。
- ・援助交際をしているオヤジは気持ち悪い。父親もやっているのか、同じことを考えているのかと思うと気持ち悪い。（2人とも父親の帰りは早いので援助交際はしていないということで安心している）
- ・声をかけてくるオヤジのタイプは「眼鏡をかけていて、いかにもっていうタイプ」。
- ・おじさんに声をかけられても、おじさんということだけで拒否するが、芸能人のような人からであればOKする。
- ・売買春についてはいいとは思わないが悪いとも思わない。交通整理と売春が同じ金額

を得られるのであれば売春を選ぶ。保母の仕事ならば保母を選ぶ。売春と一般の仕事は得たお金を誇れるか誇れないかにある。

#### 男女平等について

- ・保母は仕事を持っている女性の子どもを預かることになるが、子どもをよそに預けて働きにいくことについては別にいいと考えている。
- ・テレクラは中学の時に流行り、自分もかけたことがあるが、会う約束をしてすっぽかしたりする。「テレクラにかけてくる男性は性の対象として電話をかけてくるが、女がそういう対象として見られていることに対してはどう思うか」という質問に対して、「どうだろう」。
- ・痴漢、露出狂に会った経験あり。恐い思いをするがそのときだけで終わりである。
- ・男らしいのはいざというときに盾になって守ってくれるタイプ。

#### [第3回 要約]

実施場所：府中

被面接者：A：高校2年生、黒髪、私服

\*髪をひとつにくくってこざっぱりとした格好をし、明るい感じの子であった。こちらの質問にハキハキと調子よく答えるが、今が最も大事で、先のこととは具体的には考えられていない様子。

#### 学校環境

男女共学の都立高校

学校所在地：京王線沿線（中河原の家から京王線。駅からは学校まで自転車）

学校に対する評価：楽しい、勉強も嫌ではない

校則について：ないに等しい

教師について：年をとった人が多く、授業は総じてつまらない。（好きな先生はいるかという問いに）陸上の顧問の先生（女）をあげるが、かわいいというのが理由で、あこがれや信頼感を持っているわけではないらしい。担任（体育教師）はみんなに信頼されているが、自分は何でも相談するといった関係ではない。

#### 家庭環境

- ・両親と姉の4人家族。父親は郵便局に勤め、母親はパートで働いている。姉は短大1年生。・小さい頃は“自己中で強い”姉にいじめられた（奴隸だった）が、現在は、ふつうに仲良くしている。
- ・両親は姉に厳しくしていたが、姉が“あんなんに”なってしまったため、本人には厳しくしない。が、母は相変わらず怒りっぽく、
- ・両親で出かけることもあるが、お酒をよく飲む父に母がうるさく言うことが多い。
- ・家族で出かけることはないが、父とも母ともそれなりに会話はある。

#### 交友関係

友人：男女ともに、友達が多い。学校で知らない人はおらず、悪い人はいないし、みん

なと仲がいいと言い切る。男の子の友達も多いが、友達以上の感情を持つことはほとんどない。女の子のみか、男女混ざったグループで遊ぶ（つるむ）ことが多く、学校外で男の子と1対1で遊ぶことはない。友達とは、たわいもないバカ話か、恋愛関係の話で盛り上がる。

親友：明確な定義をもってはおらず、「何でも話す友人」は5人はいるが、クラスと部活それぞれにいる。

彼氏：いない。中学の時にはいたが、高校で、好きになる子があまりいない。友達になって、それを越えて好きになることが多いが、告白したことはない。自分から好きでないと告白されてもつきあおうとは思わない。が、男の子は、好きでなくてもつきあって、相手が自分のことを好きだと自分も好きになることが多い、という。好きな男性のタイプは、とにかく面白い人。楽しいことがよいと強調。

### 経済生活や日常生活

お小遣い：月に8千円

使い道：主にカラオケ。安いところを探して行く。買い物などは、好きな店が多いので渋谷に行く。大きな買い物は臨時収入に頼る。やりくりは大変だが、祖父母からの臨時収入などもあるので、特には困らない。お金が入るからバイトはいいが、面倒くさが勝ち、また、特に困ってはいないので、やっていない。昼食代など、言えば余計に親がくれることになっている。

### 情報環境

ポケットベル利用。PHSや携帯は、あると便利だろうが、お金が大変であるし、そうまでして欲しいとは思っていない。が、ポケベルがないと、連絡の仕様がなく、大変困るようだ。

### 将来の生き方

進路：大学を受験して、体育の先生になりたい。小学校では陸上選手になりたかったが、中学になり、現実もみえてきて、食べていくには教師になるのがいいし、教えるのも好きだからいい、と思った。

受験：今は受験勉強をしていないが、近くなれば、徐々に、必然的にするようになる。

結婚：父のような人と結婚したいとは思わず、また、母のような妻にも母親にもなりたくないと考えている。結婚しても、仕事は続けたい。子どもができたら、産休を取って育てて、そのあと復帰したい。が、とりあえずは体育教師になることが目標で、その後のことは見えていないようだ。年をとることに対して：今以上に面白いときはないだろうから、年をとりたくない。その先々で面白いのかもしれないが、とにかく面白く年をとりたい。人生面白くないのは絶対に嫌だ。

### 自己評価

- ・毎日が楽しく、環境（学校や友達）に恵まれている自分は幸せだと思う。
- ・一人でいるときは何も考えていない。友達と話したり、手紙を書いているときに自分はこう考えているのかと気づくことが多い。恥ずかしいと思うこと：ない。ねっぺしたり、転んだり、そういうことならあるが、恥ずかしがるのが嫌いで、自分で冗談にしてしまう。恥ずかしい考え方もない。
- ・嫌いな点：考えたことがないが、重要なことでも忘れてしまうことがあり、責任感が

ない、と感じている。

#### 援助交際について

- ・自分はしていないし、周りにもしている子はない。元中にはいて、勧められましたが、自分はいいこととは思っていない。友人で、やっている子がいたら、とりあえずは、「やめときな」と、止める。
- ・やる子に対しては、お金が欲しいからなんだろうと考えるが、自分はもしお金に困つても、バイトをしてお金を稼ぐ。お金は働いてもらうものと考えている。自分とは関係のないことと思うが、いつ何があるか分からぬから、とも言う。
- ・風俗を利用する人は、彼女のいない人、援助交際も彼氏がいたらしないものと考えている。・ギブアンドテイクで成り立っている（そういう仕事をしたい人がいて、欲を満たしたい客が来る）のであるから、それでよいのではないかという考え方。

#### 男女平等について

- ・今までのところ、男女不平等を感じた経験は少ない。強いて言えば、女の子の方が甘やかされているかと思う。女に生まれて得した経験は少ないと、帰り道に怖いときなど（露出狂やレイプ）、女は損だなと感じる。
- ・学校でも、女の子は男の先生にひいきされるが、同時に男の子は女の先生にひいきされるので、別に不平等は感じない。
- ・家庭では、基本的に母親が家事をしており、自分も基本的には自分がしていいと思っている。彼や夫に料理を作ることにも抵抗はないが、自分ばかりがやってたり、自分が疲れていたりしたら、「たまには手伝え」と言うだろう。

### [第4回 要約]

面接場所：新宿

被面接者：A…高校3年生、私服、黒のコート。

B…高校3年生、私服、ベージュのコート。

\*双子の姉妹での面接。2人ともはっきりとした自分の意見をもっており、物怖じすることなく積極的に面接に臨む姿勢がうかがえた。

#### 学校環境

- ・公立の共学校。この春卒業した。最寄り駅からバスを使って通い、家のある王子の駅から京浜東北と山手線を使って通学している。
- ・校則はないに等しく、自由だった。Aは部活（バレーボール）、Bは塾に通っていた。
- ・2人とも中国への洋上セミナーへの参加経験がある。
- ・2人とも、「高校生活は充実していた」という。
- ・先生との関係は、担任よりも、「行事と一緒にやった先生」との関係が強い。（A）

#### 家庭環境

- ・両親共働き。父親は学校の管理職。母親は看護婦をしている。下に弟が一人いる。
- ・父親については、「こういう人間にはなりたくないって言う、模範。」「反面教師」

「頑固者」（A）「自分には優しくて、人に厳しい」（B）父親を変えたのは管理職であるという。・母親については、「こんなこどもがいてかわいそう」「お母さんの人生って、一体なんだろう」（A）「哀れみ」（B）

・姉妹間で話はよくする。考え方や価値観は違っても、お互いの忠告は素直に聞ける。

## 交友関係

### （友達）

- ・友達との遊びは新宿が多い。カラオケやボーリングをして遊ぶ。
- ・A：洋上セミナーで知り合った友達と会ったりもする。
- ・B：塾の友達と遊ぶ。

### （親友）

- ・A：「楽しいときにはいなくてもいいが、辛かったり、頼りたかったり、極地に陥ったときに、頼りになる人」。男性も女性も親友になれると考えている。親友は心の中で決まっている。親友はいる。
- ・B：「考え方が似ていて、ずっと一緒にいたい人。他愛のない会話でも楽しく、思ったことも全部言える人」親友は同性。

### （彼氏）

- ・A：以前彼氏がいたが、今はいない。以前の彼は二歳上の人であった。別れた原因是、「異常かなって思うほどの束縛」に嫌気がさしたため。今は「親友」。
- ・B：「今はいない」が、以前の彼氏は、友達みたいな関係であった。「自然消滅」した。
- ・2人とも、好きな彼氏と性行為をすることは構わないが、避妊は絶対する。「自分が大切だから。」（A）「自分も相手も大切。」（B）

### （異性について）

- ・嫌いな男のタイプは、「束縛する人」（B）。Aも、束縛されるのは嫌いだが、付き合っていればある程度の束縛はあった方がいいと考えている。

## 経済生活や日常生活

- ・A、Bとも、お小遣いは毎月八千円。少ないとあってはいるが、なければないなりの使い方をする。洋服代、文房具などは親から別にもらえる。二人ともアルバイトはしていない。

## 情報環境

- ・Aはポケベルを前の彼氏に持たされていたが、イヤだから返した。

## 将来の生き方

### （進路）

- ・A：某私立の四年制大学に進学が決まっている。将来は「女医」になるのが夢だったが、能力の限界を感じ、スポーツ医学のできる人間科学部を選んだ。
- ・B：専門学校に内定が決まっているが、看護系の国立大学の結果待ち。母親が看護婦であり、自分も「なるものだ」と感じていた。

### （結婚）

- ・A：「束縛されるのがいや」なため、結婚はしたくない。しかし、結婚するとしたら仕事はしたい。理由は、「家庭持つたら、やりたいことができないかもしれない

」から。結婚するとしたら、相手は「精神力の強い人」がいい。芸能人で外見が好きな人は、「ピーズの稻葉さん」

- ・B：結婚しても仕事はしたい。理由は、「うちにこもるのはいや」。結婚する人は「人間的に優しい人」がいい。芸能人で外見が好きな人は、「ミスチルの桜井さん」

#### 自己評価

- ・友達に対して恥ずかしいと思うことはあるが、親、兄弟、先生などに対して、恥ずかしいと思うことはない。（A）

#### 援助交際について

##### (援助交際とは)

- ・A：女の子が援助されること。
- ・B：女の方に、何か買ってもらいたいなどという目的があり、それが実現すること。  
(援助交際をしている人に対して)
- ・A：何を大切にするかという価値観が違うのだと考える。自分を大切にするか、お金を大切にするかの違い。売る側と買う側では、買う側が悪いと思っている。理由は、「最初に買うほうがいるから」。
- ・B：個人の価値観の違いで、人の出る幕ではない。
- ・二人とも、「自分が大切だから」援助交際はしていないという。（友達が援助交際をしたら）
- ・A：やって欲しくないが、決めるのはその人だから、その人の価値観を変える自信がなければ、とやかく言えない。
- ・B：勝手にすればよいと思っている。しかし、親友であれば「泣いて頼み込んで」やめさせる。それでも援助交際をやめなかつたら？の質問に、「親友であれば絶対分かってくれる」。

##### (買う側の男性について)

- ・A：「許せない」と答える。理由は、「年上」の「大人」の「男の人」が、「子ども」の「女の子」と、お金をあげて交際しようとする行動自体が許せない。
- ・B：「大人」は買うべきでない。

#### 売春について

- ・A：両方対等な関係で、ちゃんとした「大人」がやるのであれば、嫌なことだけど、怒りは感じない。生活出来ないのであればしょうがないが、一定レベルの生活が出来ているのに、お金が欲しくてやるのはいけないと考える。しかし、もてない男が性欲を発散するための売春についてはどう思うかの問い合わせに、必要なのかもしれないと答える。

#### 男女平等について

- ・A：女性が支配され、男性に頼っていた歴史が存在し、女性も自立していかねばならないと考えている。しかし、男に頼っていこうとする女性がいる限り、差別はなくならないと考える。売春などを生きていくしかない女性については？の質問には、「社会的な保護があればいいと思う」。
- ・B： Aと同意見。

## [第5回 要約]

実施場所：府中

被面接者：A：高校3年生（この3月に卒業した）

\*身長が高く、すらりとしている。ショートカットで、茶髪ではない。ピアスを左に二つ、右に一つしていた。面接中は、受け身な態度が目立った。

### 学校環境

- ・神奈川県にある私立の女子校に通っていた。電車で1時間くらいかけて通学している。校則は厳しく、学校指定のハイソックスがあった。学校帰りは、靴下を履き替え、髪もほどく。本人は髪の毛を注意され、染め直した。
- ・学校の先生は女性が多かった。好きな先生はいなかった。授業は聞くのもかったるかったが、学校へは「真面目に」通っていた。部活には入らなかった。
- ・アルバイトは禁止されていたが、本人はやっていた。みつかると、停学や退学になる。
- ・派手な子と地味な子の混ざった、「異様な雰囲気」の学校であった。
- ・同じ学校の友達は、援助交際など考えられないタイプの子が多い。

### 家庭環境

- ・遅くなるときは、22時をすぎたら電話をするが、それは門限ではない。
- ・両親と兄弟の5人家族。両親の仲は悪くない。兄弟は姉と兄（24歳と21歳）がおり、本人は3人兄弟の末っ子である。兄弟の中で、自分だけが個室を持っていないという。昔は自分の部屋が欲しかったが、もうすぐ友達と2人暮らしをする予定であるため、「もうすぐ行くからいいや」と思っている。家を出ることについて、両親は？の間に、「反対も賛成もしていない。」・兄弟の中で、本人が一番よく出かけるため、「遊んでいる子」と見られている。
- ・母親に相談事ることは、ほとんどない。家族で食事をとることも、まれである。本人曰く、母親は「ちょっと働いてるみたい。」母親の生き方は、あまり好きではないらしい。
- ・父親は普通の会社員であり、家の中では「ちょっと見かける」だけで、会話はしない。家事はよく手伝う父親であるという。そんな父親を見て本人は、「別にいいんじゃない」と思ってる。

### 交友関係

(友達)

- ・友達は「普通に」いる。
- ・カラオケに行くときは地元（中河原）や国分寺、府中などで遊び、買い物だったら渋谷、原宿、代官山に行く。遊ぶ時間は土日しかない。
- ・買い物に行くときは高校の友達と行く。地元の友達と遊ぶときは、帰りが遅くなることが多いという。
- ・友達で彼氏のいる人は、多かった。ナンパなどで知り合うことは少なく、以前からの知り合い等がきっかけで付き合っている人が多い。
- ・仲良く、色々なことを話せる友達はいるが、親友というには「照れくさい」という。

親友かどうか、考えたことはない。

#### (異性)

- ・彼氏はいない。合コン等にも興味がなかった。中学の時に好きな人はいたが、今は男性に興味がないという。
- ・好みのタイプは？の質問に、「普通の」。芸能人では、ルックス的には、「袴田吉彦」がいいと思っている。性格的には「おもしろくて、優しい」人が良いと考えている。
- ・中学の時の男友達とは、たまに会ったりするが、頻繁に会うことはない。異性よりも、同性と遊ぶほうが楽しいと考えている。

#### 経済生活や日常生活

- ・月曜から金曜まで居酒屋でアルバイトしていた。一ヶ月のアルバイト代は八万円くらい。別に親からも五千円もらっていた。
- ・バイト代の使い道は洋服、友達と遊びに行くなどであり、一ヶ月でほぼ使い切ってしまう。貯金すれば良かったと後悔している。ブランドなどにこだわりはない。

#### 情報環境

- ・ポケットベルやP H S等は、もっていない。友達には早く持つようにいわれているが、本人は「別にいいじゃん」と思い、その必要性は感じていない。

#### 将来の生き方

##### (仕事)

- ・興味のある仕事であれば、働きたいと思っており、結婚しても仕事は続けていきたいと考えるが、将来のことについては、漠然とした考えしか持っていないようである。

##### (進路)

- ・雑貨の専門学校に進学が決まっている。
- ・小・中学校の時の幼なじみと、2人暮らしをする予定になっている。

##### (将来)

- ・こんな人になりたいな、という女性は？の間に、「自分で自立している」と答える。

##### (結婚)

- ・優しくて、おもしろい人と結婚したい。
- ・男の人に養ってもらうことはイヤではない。しかし、男の人の経済力は、「期待しない。」好きでもない人と、焦って結婚する気はないという。見合いはいやだという。理由は、「いいイメージがない」から。

#### 自己評価

- ・今の自分は好きでない。しかし、イヤだと思う部分を改善しようとは思っていない。自分について考えること自体、あまりないが、他人に惑わされずに生きていこうとは思っているらしい。・自分の外見については、全然気にしないという。
- ・自分の仲で、他人に誇れるようなところは、何もない。逆に、恥ずかしいと思うところもあまりない。酒を飲んで吐いたり、チャック全開で写真に写ったときは恥ずかしいと思う。

#### 援助交際について

- ・お金のためにおやじと付き合う人については、「それはそれでいい」のではないかと思っている。しかし、自分がやろうとは思わない。

- ・一緒に暮らす予定の子が援助交際をしているが、その子に対しては、「好きでやっているから」賛成も反対もしていない。その子はテレクラがきっかけで援助交際をするようになつたらしい。友達は援助交際でSEXするの?との間に、うなづく。一回三万から四万円位でSEXしている。彼氏には、援助交際をしていることを内緒にしているらしい。本人も相手の「おやじ」(20代)に、焼き肉やカラオケ、飲み代などをおごってもらったことがある。相手の男性は「普通の人」だった。援助交際していないのに、おごってもらうなどの「いい思い」をしているため、友達よりも自分のほうが罪は重いと思っている。友達は、「痛い思いをしたら」援助交際をやめるのではないかと思う、と考える。
- ・買う側の「おやじ」に対しては、「はっきりしない人」「やめりやいいのに」。だがさんざんおごらせているので、かわいそうと思っている。
- ・テレクラは小学校の時していたが、今はしていない。
- ・「おやじ」のイメージは?の間に、「はっきりしなくて、ふにゃふにゃ」「はげ」「よれっ」などと答える。40代、50代を「おやじ」と考えている。「おじさん」と聞くと、30代を想像する。
- ・おばさんは「ドン」というイメージがある。自分は、年をとっても「今まで通りやつて」以降と考える。

#### 男女平等について

- ・女であることで損をしたことはないという。女に生まれて良かったと考えている。女に生まれて得をしたことは?の間に、「一生働かなくてもいい」事と答える。援助交際をしている人を見て、女は得をしていると考えた事もある。
- ・男の人に守って欲しいとは考えない。
- ・男女平等についての問には、実感が伴っていないためか、答えにくいようであった。

#### [第6回 要約]

面接場所：八王子

被面接者：A：高校2年生

B：高校2年生

\*第1回面接のうちの2人。今回の面接は、研究の本来の目的である「男女平等」の視点からは問うことができなかつたが、高校生の性産業への関わる切っ掛けを垣間見ることができた。

#### 学校環境

- ・セクハラとまでは行かないのかもしれないが、Mという若い教師が生徒に自分の携帯電話の番号を教えようとする。
- ・修学旅行中に、Mが酒を飲んで、Bの部屋に入って來たので、Bが「酒臭い」というと、「酒臭くないぞ、キスしてみるか」と言ってくるということがあった。Bとしては、冗談で済ませているものの、Mが本気っぽいところがあるのでやめてほしい。

- ・Mは生徒が自分のポケットベルを見ていると勝手にベルの内容を見てしまう。
- ・BはそういうMに対して、関係が悪くならないように、冗談っぽくやめて欲しいと言っている。

### 経済生活や日常生活

- ・お金がなくなり、「貧乏」になると水商売の仕事をする。「貧乏」とは所持金が残り千円になった時のことという。
- ・Bはお金がなくなると、親からもらえるが、「うちって貧乏じやん。だから、あんまりもらったら悪い」。Aもそう考える。
- ・水商売でもお酒を注ぐぐらいの所までがBは許容範囲のようだ。フロアレディ、デートクラブなど。
- ・Aはピンクサロンにも行ったことがある。実際に客をとっていないが、将来を期待され、時給2500円のところを2時間で7500円もらう。
- ・Bはオヤジ狩りも計画。力の強い男子生徒2人（その時は付き合っていなかった今の彼氏が含まれる）とテレクラで相手を呼び出す。1度目はAも参加したが、相手が来なかつた。2度目は相手が来たが、「野良仕事」をしてそうで、「優しそう」で、「かわいそうな」おじさんだったので、実際には狩るのをやめた。全体として、計画することがあるって、実際にしたことはない。

### 交友関係

- ・友達と親友の使い分けはしない。みんな友達。
- ・友達とは「一緒にいて楽な人」「気を使わなくていい人」「何でも話せる人」「合意人」（B）・女の前と男の前では態度が変わる人は嫌われる。
- ・自分が恥ずかしいと思った経験は人前で転んだことだが、その時は友達がいた方が恥ずかしくない。逆に友達がそばにいると恥ずかしくなるような行動はない。
- ・テレクラを合コン感覚で利用している。「いい人」と出会うこともあるが、セックスを強要されることもある。この時の「いい人」とは、セックスを強要せず、おごってくれる人をいうようだ。

### 援助交際について

- ・援助交際とはHしてお金をもらうことであるが、1回きりではなく、連絡を取り合いながら続していく関係。パパを持つこと。（B）
- ・売春は1回きりの関係で、愛人とは愛がある人との関係。（B）
- ・Aは1月頃に援助交際をした。友人とテレクラで相手を見つけ、セックスする。2万5千円と1万円でしたことがある。2万5千円でした時にコンドームが破れるということがあった。1万円の方は始めは2万円という約束であったが、ホテルに行ってから相手に1万円しか出せないということを言われる。「いい人」であったらしい。連絡先を教えてもらったが今は連絡を取っていない。
- ・援助交際をしたことのある友人は、家出をし、お金に困って援助交際をした。社長らしい相手と会ったその日は何もせずに1万円をくれたが、次の日はアナル・セックスを強要される。金額は3万円。
- ・Aは援助交際をしている友人にやめるように言うが、誰も聞いてくれない。
- ・今度、AとBの2人は会って遊ぶだけでお金をくれる歯医者と会う予定がある。「超楽しみだよー」（B）

## 彼氏との関係

- ・ Aは付き合って1年ぐらい。今の彼氏は（1日だけの付き合いを含めて）10人めぐらい。現在彼氏はAの家族と同居している。弟の面倒を見てくれるの、親は何も言わない。ずっと彼氏と一緒に疲れることがある。自由になりたい。
- ・ Bは付き合って1ヶ月と2週間くらい。1時間ごとにベルが入り、何をしているかを聞いてくる。Bが男の子と話していると嫉妬する。B自身は彼を束縛するタイプなので、もっと自由にさせてほしい。今の彼氏は5人め。別れる時は別れ話をするのは嫌なので自然消滅が多い。
- ・ 2人とも結婚の話が出ているが、2人とも家で家事をするように言われている。2人とも将来はマイク、美容師として働きたいので、意見が合わない。Aは相手が結婚しても働いてよいと言わない限り、結婚できないという。Bは進級が決まったばかりであり、結婚の話は考えられない。・2人とも束縛する彼氏に不満を持っている。

## [第7回 要約]

実施場所：ひばりが丘

被面接者：  
A：高校2年生  
B：高校1年生  
C：高校1年生

\*サッカーチームのマネージャーの3人。先輩が、主に面接の質問に答えてくれ、はきはきとしっかりした様子であった。AとBは、その道中も楽しそうに話していたが、Cはおとなしくあまり口数も少ない感じであり、その様子は面接中にも見られた。

## 学校環境

男女共学の都立高校

学校所在地：西武池袋線沿線（3人とも自転車で30分以内のところに住んでおり、自転車通学）

学校に対する評価：勉強はつまらないが、それ以外の友達と話したり、部活の時間は楽しい。進学率が高い。3分の1（1学年3百人未満）は指定校に決まり、あとは一般の推薦と受験と浪人であるが、浪人も入れなくてというよりは、もっと上の大学を目指してという感じ。卒業後すぐ就職という人はごくわずかである。

校則について：緩いと思う。学校の決まりごとで窮屈を感じたことはあまりない。何か問題を感じたら、自分たちで変える活動をするよう注意が出ている。自分たちの中で、その自主性に任せるという姿勢。

教師について：先生とはあまり話をしない。するとすれば、マネージャーと顧問という立場で。教師の男女差はほぼ同じで、どちらかといえば女の方が少ないと、総じて授業はつまらない。

## 家庭環境

A：両親と妹（中3）。最近引越しをして、ようやく自分の部屋を持てた。妹とはけ

して仲はよくない。母親は平日は臨時の在宅サービスセンターで働いており、その手伝いをして高齢者の福祉の道もいいかと考えたようだ。父親は厳しいが、日曜など家族と一緒に買物に出かけたり、たまに料理を作ったり、Aにとっては、理想的な夫像であるという。が、Aを大人を見る半面、PHSを持たせたり、門限を厳しくしたりと規制の多いことから矛盾を感じ、父親に対する不信感も多く持っている。夫婦仲は悪くないであろうが、あまり会話がないようだ。夕飯は家族そろって食べる。

B：両親と弟（中2）。母親は週3日パートをやっている。夕飯までには帰ってくるので、パートを始めたからといって、家事分担が変わったということはない。夫婦仲はいいが、父親が酒を飲んで帰ったときは、母親の機嫌が悪くなる。家族での会話は多分にあるようだ。

C：両親と弟（中2）父親は単身赴任をしており、家に帰ってくるのは月に一回。母親は週3回パートで働いている。夫婦仲はいい。Cは、母親とはよくしゃべるが、父親とはあまりしゃべらない。嫌いというわけではないようである。

#### （門限）

Cは門限はないが、遅くなると（10時過ぎ）怒られる。Bもないが、電話連絡をしておけば大丈夫。Aは7時の門限があり、他の友人に比べ厳しいと感じている。父親がないときは、少し遅くなても、母親がおおめに見てくれるところはある。

#### （男女差）

特には感じていない。扱われ方、期待のかけ方の違いなど、弟と差はない。

#### 交友関係

部活で忙しいので、友人と遊びに行くことは少ない。

恋愛：共学の場合、男の子とは友人から始まり、親しくなってお互いをよく分かった上でつきあいはじめる。だから、周りでつきあっている子は、長く続く子が多い。

A：以前に付き合っていた人がいたが、別れて今はともだち（サッカーチーム員）。つきあったり別れたりするのにはエネルギーがいるし、傷つく面もあり、それが恐い。だからつきあう相手が結婚に結びついているのかもしれない。価値観の似た、同じ物をいいなと思える人がいい。困ったときに頼れて、精神的に大人な面を持っている人であれば、年下でも気にならないだろう。

B：学年のあるうちは年下は絶対に嫌だが、社会に出れば年齢は関係なくなると思う。

C：自分がしっかりしていないから、しっかりした人とつきあいたい。同じ年か年上。

性・避妊：保健の授業で、一応の避妊の方法などは習っている。基礎体温はあるがあてにはならないので、セックスをするときはゴムをつけるようにといわれている。

A：好きだから即セックス（エッチという表現であった）とはならない。一回しゃべれば…というのでいろんな人とつきあってみては別れる人がいるが、そんなセックスはしたくない。自分が好きになった人は、エッチ目的ではなく、きちんと大事に思ってくれて避妊してくれる人であると信じている。それは付き合ってみたいと分からないが、分かった時点で見方は変わる。ノーといえる人間になりたいと思うが、絶対の自信はない。

B：避妊しても完全というわけではないから、恐い。恐い気持ちがなくなるような人であつたら、いいと思う。それまでは相手に求められても、ノーといえる。

C：好きだからセックスというのは、あとで後悔すると思うが、好きだったら自然にそう（いう関係に）なると思う。自分もノーといえる人になりたい。

### 経済生活や日常生活

3人とも、平日は学校のあとに部活（月曜は休み）で、土日はまた部活といった毎日であり、友達と遊んだりすることが、他の子よりは少ないと感じている。

A：お小遣いは今はもらっていない。バイトをやっていたが、部活の方が忙しく時間がないので辞めた。必要なときに親からもらうことになっているが、あまり遊びには出かけないので、そんなには必要でない。

B：お小遣いは月に5千円。ほかに、ちょこちょこともらうこともある。洋服など大きな買物は、お年玉などから買うようにしている。

C：お小遣いは月に1万円。冬休みに短期のバイトをした。「無駄なもの」をちょこちょこ買うと、それでも困ることがある。

### 情報環境

A：PHS 利用。父親に、行動把握のために持たされている。が、料金を全部持ってくれていることと、友達との連絡を取るのに便利なことで、別にいいかとも思っている。

B：ポケベル利用。大事なこと入れず、友達とくだらないことを入れあっている。

C：どちらも持っておらず、友達との待ち合わせのときに不便を感じる。

### 将来の生き方

#### （進路）

3人とも進学を希望。

A：福祉か保育科で悩んでいる。両方の免許を取れる専門学校があるので受験するつもりでいるが、先輩に保母になるなら短大を出ておいた方がいいといわれ、迷っている。

B：看護婦か栄養士になりたいが、数学が苦手なので、文系の方面でも考えている。

C：大学に行きたいとも思うが、美容師になるための専門学校にいこうかとも思っている。おばに2人美容師をやっている人がいて、その影響を受けている。

#### （結婚）

A：最終的にはお嫁さんになりたい。仕事をバリバリやるよりは、家庭に入って夫と子どもの世話をするのが自分の幸せだと感じている。子どもの気持ちの分かる、子どもに家にいて欲しいなと思わせるような母親になりたい。資格を持った専門の仕事は、周りの人も要るわけだから容易には休めないので、子育てのあとはポランティアという形で仕事ができればいい。

B：結婚して、子どもが大きくなるまでは家にいて、そのあとまた仕事をしたい。が、外のこと中心ではなくて家中心にし、それができてから外のことをするのが理想。相手も、家族のことを考えててくれてそのために仕事をがんばる人を望む。熱中して極めたいことがあるなら、家を大切にしろとはいわない。

C：仕事をやってみてからじゃないと分からぬが、楽しければずっと仕事は続ける。

#### （おばさん観）

自分たちのことを「おばさん」というが、それは巷で言われているような女子高生にはなれず、冷めた目でそれを見て、妙に落ち着いている自分たちを意味している。年齢よりも気の持ちようで、家庭に入っても、自分のやりたいことをやって輝いているうちにはおばさんではないと思う。

#### 援助交際について

##### (援助交際をしている人に対して)

A：なぜ、できるのか分からない。「（セックスは）一回しちゃえば変わらない」という考え方の子がしているのだろう。住む世界（考え方）が違うのだという程度にしか思わない。

B：そういうのは、お金のためなのだろうが、あとで絶対後悔すると思う。

C：実際にやっている人を見てないから、別の世界という感じがする。

##### (親しい友人が援助交際をしていたら)

本当に援助のためだけなら、きっと止める。親しいということは自分と考え方が似てるってことだと思うから、きっと後悔すると思うし、止める。友達でない人を止めても「あんたに関係ないでしょ」という感じだろう。

##### (何に後悔するのか)

A：プラスな面はその時だけ。お金の感覚もおかしくなるだろうし、一生できるものではない。後になにも残らなければ後悔はしないのかもしれないが、ほんとに好きな人とつきあったときにきっと後悔するんじゃないかな。

B：悪いことだとは分かっているのだと思う。だから、やっていた自分を嫌いになるのではないか。

C：お金が欲しくてあってたとして、あとで自分が汚れている感じがするように思う。

#### オヤジ観

- ・援助交際をしている女子高生が使う「オヤジ」は、なんでもしてくれるっていう、バカにした（人としてみてない）感じがする（B）。
- ・年齢よりも外見で、オヤジがおじさんか、見方が異なる。
- ・オヤジはそこら辺にいるみんなが嫌うような人（例えば、同じ臭いをしてて頭薄くて、ギトギトした中太り）で、女子高生見つけて触れないけど近くに寄っちゃうような人。おじさんは反対に、父親のような、もっとほのぼのした感じ、もしくはお金持つのおじさまって感じの人（A）。が、反対にAは、オヤジというとお父さんて感じがすると答えた（多分、男の子が父親のことをオヤジと呼ぶことからきているのだろう）。

#### 男女平等について

- ・3人とも、女ということで不平等を感じた経験はほとんどない。努力をすれば、男女関係なく認められてきたほうであるから、女に生まれて不利だと考えたことはない（A）。
- ・Bは、将来・就職のことと交えながら、看護婦や栄養士はどちらかというと女の職業であるから、不平等を感じることはないだろうと考えている。

##### (ミスコンテストについて)

きれいな人は得するな、と思うくらい。自分のこととは置き換えられず、実感は湧かな

い。点づけをしたり、ショウになつたりすることについては、特には何も思わない、思ったとしても、うらやましいと思うくらいのようだ。

### [第8回 要約]

面接場所：新宿

被面接者：A：高校3年生

B：高校3年生

\* 2人ともこの春高校を卒業。2人とも化粧もあまりせず、服装も派手ではなく普通の高校生という印象を受ける。Aは茶髪でパーマでアップにしている。Bは黒髪を軽く見せるぐらいに茶色くしてある。AもBも周りの目を気にする所があるという。

### 学校環境

- ・高校へはAは調布の家から京王線で新宿まで、Bは板橋の家から東武東上線で池袋まで出て山手線で新宿まで行き、後はバスか地下鉄か歩きで学校まで行く。学校までは50分くらいかかる。
- ・在学時代は早く卒業したいと思っていたが、いざ卒業となると「やだな」と思う（B）。
- ・制服は標準服があるが、私服でもかまわない。AとBは標準服が気に入らないので、かわいい制服を他から借りたり、ブレザーの替わりにセーターやカーディガンを羽織る。スカートは短く、ルーズソックスを履く。
- ・校則は厳しくないがお堅い真面目な学校。少しでも今時の高校生の流行に乗ろうとすると、周囲から圧力がかかる。だから流行は遅れて入ってくる。
- ・校則はほとんどなく、校則で生活が縛られたいという感覚はない。アルバイトは親の承諾があれば出来る。校則というものに対して、校則がゆるいと自分でしっかりしないといけなく、派手なことはいつでも出来るので逆に落ち着く。この高校では派手なことをしようすると周囲の圧力がかかるので出来ないことがあるが。
- ・中学校時代にはシカトされるといういじめが起きたが、そこで先生に頼ることはできない。先生は信用できず、自分のことしか考えていない。言いなりになる生徒が好きで、先生に何か意見を言おうものなら嫌われる。進路のことも相談していない。

### 家庭環境

- ・A：両親（そば屋を経営、共働き）、妹（高2）、弟（中1）。そば屋を営んでいるため、家族全員で食事を取ることは少なく、休みの日にどこかで外食するぐらい。結婚するなら父親のような旦那さん（家庭的で、日曜大工もする）がいい。母親については好きとはいえないが尊敬している。・B…父親は1月に病気で死去。母親が働いている。兄（大学2年生）、祖母と暮らしている。食事は1人ですることが多い。
- ・2人とも最終的に頼れる大人は親であると感じている。しかし、1番信用できるのは友達の方である。親とは意見の違う所がある（A）から、話さない。
- ・親と真面目な話をしようとすると照れくさくてできない。

## 交友関係

- ・ クラスの少ない学校だったので、みんなが友達のようで、仲が良かったが親友とは違う。2人は親友で気が合うし、隠し事をすることなく話すことができる。ただし、Aの彼氏との「下ネタ」については恥ずかしくて言えないが。異性の遊び友達はいるが悩みを話すような友達はない。
- ・ 遊びに行く時は「お金がないので」新宿の安いカラオケ、もしくはファーストフードでジュースを飲んで話し込む。渋谷にも行く。
- ・ 休みの日は2人でよく遊が、お金を使う遊びはしていない。
- ・ Aには年下（今度高2）の彼氏がいるが、付き合うきっかけはナンパである。10月から付き合いはじめている。今の彼氏は以前に付き合っていた彼氏と違い、隠さず全部話すことができ、包容力がある。
- ・ Bの好みは外見的なものだけで言えばV 6の森田剛。優しい人が良い。優しい人というのは「周りにいい人」で、自分だけに「優しい人」。今、好きな人はギャグを言って人を楽しませる所もあるが真面目な人でもある。
- ・ globeの「優しい人じや嫌なんだけど、優しい人が好き」（Is this love）という歌詞に共感する（A）。
- ・ 周りにも自分にも冷たいが、その下に優しさが流れてるというのがいい。優しさを具体的に感じる場面として、「転びそうになったときに、手をパッと」出してくれる（A）、「すかさず荷物を持ってくれる」（B）。
- ・ 顔ではなく性格がいい人がいい。確かに初めて会った時に顔は見るが。
- ・ 今、自分が高校生だからかもしれないが、学生と社会人の付き合いは考えられない。40代、50代はお父さんとしてしか見れず想像つかない。
- ・ 傷つくのは友達に性格のことを言われた時（A）、子どもに見られた時（A, B）。

## 経済生活や日常生活

- ・ A：プールの中に入ってるレストランでウェイトレス（高2まで）。時給は高1の時は700円、高2は850円。お小遣いは高1の時7000円、高2の時10000円、高3の時12000円。洋服、化粧品などはバーゲンで買ったり、親戚が旅行に行った時に安く買ってきてもらう。足りなくなつたからと言って親がくれるわけではなく、お小遣いでやりくりするように言われる。
- ・ B：近所のスーパーでレジ打ち、品出し（高2まで）。時給は高1の時750円、高2は800円。塾にも行っていたので週に3回くらい。お小遣いはアルバイトをしている間は5000円、辞めた後は10000円。足らなくなるともらえるが、兄が親にもらっているので、あまり言わない。

## 情報環境

- ・ AはPHS、Bはポケベルを持っているが、今時の高校生の流行を追った行動のようなので、周囲から圧力がかかり、持っていることを隠していなくてはならない。
- ・ Bがポケベルを持ったのは地元の友人と連絡を取るため。

## 将来の生き方

- ・ 卒業後はAは浪人するが、保育園の時からなりたかった保母の資格を取れる所を目指す。Bは短大で日本文学を専攻する。
- ・ Aは結婚は早くしたいが、保母は遺り甲斐があるので、子どもが出来たとしても（一

時辞めるかもしれないが）仕事を続ける。夫が家庭に居て欲しがっても話し合って仕事を続けられるようにする。自分は子どもの頃母親にかまってもらえない寂しい思いをしたが、今思えば自分達のために働いてくれていたのだと思う。「自分が働き、同じように子どもが寂しい思いをするのでは？」という問い合わせに対して、授業参観、行事などには絶対に行ってあげたいし、女性が働くことには賛成である。家庭と仕事を両立している人が憧れ。

- ・Bは若いお母さんに憧れているので早く結婚したい。相手に経済力がない時、子どもが学校に行くようになった時は働きに出る。相手に経済力がある場合は働かないつもりであるが、働くことが好きかもしれない。将来はみんなに八方美人ではなく、好かれるような人になりたい。

#### 援助交際について

- ・援助交際とは両方の援助である。女の子は体を売ってお金をもらい、男は体が欲しいからお金を払い、それで両方満足している。
- ・援助交際をしてお金が欲しいとは思わない、そんなお金はもらっても嬉しい。お金が欲しかったらバイトをする。お金は働いて稼ぐもの。
- ・援助交際をしている女子高校生とオヤジは「バカ」（A）だと思う。
- ・援助交際をしているのが友達だったら止めるが、仲良くなかったらうらやましいという意味ではなく「すごいね」と思う。
- ・相手が20代、30代であろうと、お金をもらうという時点で考えられない。
- ・自分が援助交際をした場合、そういうことしている自分も嫌だし、友達に見られるのも嫌。今は良くても将来、自分を許せない気持ちが残るだろう。
- ・歌舞伎町いるとオジサンが「援助交際しない？」とナンパしてくる。断ると誰かを紹介するように言われたことがある。
- ・Bには援助交際をしている知り合いがいるが、そのようなことをしている知り合い自体が嫌に見えてくる。
- ・「高校生ということに価値があるのか」という問い合わせに対して、「若さ」が価値だと答える。制服を着ている方がナンパされる回数が多い。
- ・援助交際をしている人はほんの一部だろうし、マスコミは誇大報道しすぎである。

#### 男女平等について

- ・「女のくせに」と言われるとムカツク。たぶん男の子の中には自分の理想の女の子がいて、それとちょっと違うと「女のくせに」と言われてしまう。
- ・女だからけんかに入らずにすみ、得をしたと思う。逆に女の子の間の言葉の暴力が起った時は男の子の方がいいと思う。
- ・ミスコンについては、出たい人が出るのだから構わない。女性が一般的に外見の良さを求められることについて、「きれいな人はうらやましい」と思う。自分達とは違う世界の人たちで、程遠い人たちなので、努力してきれいになろうとは思わない。

## [第9回 要約]

面接場所：国立

被面接者：A：高校2年生

\*いわゆる普通の（派手じゃない）高校生という感じの服装。左耳にだけイヤリングをしている。元気がよく、活発、さっぱりしている。周りに流されず、自分の考えをしっかり持った感じ。ウィンタースポーツが大好きな女の子である。中学校時代にはボランティア、高校時代にはメンバーにホームステイをしたことがある。テープを止めてから話してくれたことも要約に載せる。

### 学校環境

- ・私立の共学に通う。スポーツが強い学校。
- ・高1の時はバスケ部でプレーヤーとして在籍したが、アキレス腱を痛めたため、先生に頼まれ男子バスケ部のマネージャーとなる。現在は引退している。
- ・高1の時は学校に馴染めなかつたが、高2でクラス替えをしてからは、クラス全体が仲良いで楽しい。
- ・アルバイトは禁止。ピアス、バイクも禁止。月に1度頭髪検査があり、3回注意されても直さないと親が呼び出される。廊下を歩いていてもスカートが短いということで先生に捕まることがある。・厳しい先生が多いが、話を分かってくれる先生が1人か2人ほどいる。教師は全部で110人ほど。ある意味恵まれているが、いつ、どこで見られているか分からない。
- ・選択科目のある学校である。

### 家庭環境

- ・父親（建物の管理者）、母親（専業主婦）、姉（真面目な話をする時の相手）、兄（遊ぶ時の相手）。
- ・父親は石頭で堅物であり嫌いだが、援助交際などはしていないという信頼がある。父親に少しでも違う意見を言うと、激しく反論される。世間話はできるが話し合うことは出来ない。
- ・母親は習い事などもし、楽しそうである。
- ・両親に自分のことは自分で決めるように育てられた。自分で決めたことならば、親は見守ってくれる。本当に困った時には助けてくれる。

### 交友関係

- ・友達と遊びに行くときは、東京だったら八王子。女の子とだけで行くのならば渋谷や新宿（洋服や映画を観る）。東京以外であればザウスに行ったり、スキーやスノーボードをしに行く。・今、彼氏はいないが男友達の方が多い。女の子はジメジメした所があるので苦手。
- ・Aは行かないが、合コンで会ったその日にセックスをするということが普通であり、それで妊娠した子がいる。その時は親には言えないので、友達がカンパをして中絶したようだ。Aが合コンに行かないのは男女間の友情が成り立たなくなってしまうからだ。合コンに行く人は異性を性の対象としてしか見ていない。1回きりの関係で長続

きする友達を持っていない。

- ・セックスは好きな人とやるのならばいやらしいものではないが、お金をもらうのは間違っている。

#### 経済生活や日常生活

- ・今は休んでいるがレジ打ちのアルバイトをしている。時給780円で、多い時は月に7万円ぐらい稼いだ。その時はデンバーにホームステイをするための費用であった。（親に全部出してもらうのは嫌だったから）
- ・最近もスキーやスノーボードの費用としてお金が消える。

#### 情報環境

- ・現在P H Sを持っています。ポケベルは返すのが面倒くさくて飽きてしまった。P H Sで顧問の先生と連絡を取っている。
- ・学校で持っているのが見つかると取り上げられる。

#### 将来の生き方

- ・将来は外国に住みたいと思っている。自分の考えさえ持っていればお互いに認め合う自由な所があるから。表裏なくはっきり言い、さっぱりした関係が作れる。日本は変に冷たい。
- ・将来、外国に住みたいので大学は国際関係の勉強ができる所。
- ・結婚は32ぐらいまでにしたい。家事をするのは結構好きなので専業主婦になるだろう。母親は理想だが、父親は堅物なので理想ではない。一緒に遊べるような夫がいい。

#### 自己評価

- ・自慢できる所は「自分が好き」なこと。
- ・誰かに自分のことを決めてもらうと、後で後悔した時にその人を恨んでしまうので、そういうのは嫌だから、自分のことは自分で決める。最近は後悔したことがない。

#### 援助交際について

- ・高校生というだけで、テレビに出てくる高校生と同じであるという目で見られる。あまり高校生にテレビに出て欲しくない。援助交際しているオジサンに対しては、自分がテレビの高校生と同じように見られるのと同様に、社会の男の人はテレビの中のオジサンと同じように見える。・セックスまでしたら援助交際である。
- ・援助交際は自分とは別世界のこと。
- ・援助交際をしている女子高生については、「そういうことしかできないから、かわいそうだと思う」。
- ・お金は自分で働いて稼いだ方が使いがいがある。
- ・援助交際については「感覚的には私たちの世代って麻痺してる」。例えば、合コンで初めて会った人とその日にセックスをしたという話を聞いた時、初めは批判的な目で見ていたが、そのうちに「またかって、普通になっちゃう」。
- ・東京都で条例を作るという話については、条例を作ること自体が「恥ずかしい」話。
- ・援助交際は流行の1つなので、時が経てば援助交際をする人も減る。最近の子は流れやすい人が多い。報道するから真似をする人が出てくるのである。
- ・友達がもし援助交際をしていたら止める。自分がしないのは、お金で体を売るということが間違っていると思うから。

- ・「高校生ということに価値があるのか」という質問に対して、高校生は1回きりで後腐れがないから買う側にとって都合がいいからであるという回答。

#### 男女平等について

- ・援助交際の報道が増えてから、痴漢が増えた。高校生というだけでそういうことを求めているととられてしまっているからだと思う。
- ・男性は性欲を押さえることが出来ないのだと思う（報道と共に痴漢が増えたことから）
- ・援助交際など性産業は1つの職業かもしれないが、それは今の時代だからそう言えるのである。自分は間違っていると思う。

#### [第10回 要約]

面接場所：国立

被面接者：A：高校1年生

B：高校1年生

- \* Aは茶髪、Bはショートカット。2人ともブルーのカラーコンタクトをつけていた。A、Bとも、明るく、はきはきとした態度で、面接者の質問に答えてくれた。学校関係や異性関係、援助交際をしている友達の事などについて、詳しく話を聞くことができた。

#### 学校環境

- ・共学の都立高校生。Aは自転車、Bは電車でそれぞれ通学している。自宅はAが国分寺、Bが立川。
- ・校則は、「超」厳しく、ピアスなどはとりあげられる。バイト、パーマ、茶髪も禁止で、違反すると自宅に電話がかかってくる。ルーズソックスはよい。
- ・先生は「若いのに」うるさい。全員が厳しい。
- ・学校は授業以外、すべて楽しい。
- ・Aはバスケ部に所属しているが、みんな「やる気がない」。
- ・Bは、以前テニス部に入っていたが、顧問にやめさせられ、現在は家庭科部に入っている。しかし、「いろいろ忙しく」行っていない。

#### 家庭環境

- ・Aの両親は共働き。母親は保険会社に勤務し、月の終わりが忙しいという。他に双子の姉妹と、2歳上の兄が一人いる。母親とは仲がよく、「聞いといたほうがいい」と思い、母親の言うことはきく。父親には、「なめられたら、終わり」だと思い、厳しい態度をとる。双子のもう一人のほうは、「すごい甘えっ子」。両親の仲は、「悪くはない」。
- ・Bの父親は自営業。母は、家事全般を引き受け、「配達に行く」ときだけ父の仕事を手伝う。姉が2人いる。門限は厳しくなく、電話すれば帰宅は何時でも良い。両親の仲は？の質問には「よくわからない」と、曖昧な考え方をする。理由は、「寝に帰る」だけだから。

#### 経済生活や日常生活

- ・Aはケーキ屋と、「親には内緒」で、ティッシュ配りのバイト（時給900円）をしている。
- ・Bは中華料理屋のウェイトレスをしている。ティッシュ配りのバイトは2日でクビになった。週に2日、ダンスを習っている。お小遣いは、本来ならば「二万くらい」もらっているが、親に借金をしているため、現在はもらっていない。バイト代は月三・四万円。使い道は、ダンスの費用、PHS代、親への借金の返済など。

#### 情報環境

- ・両方ともPHSをもっている。Aは、「PHSだと電波が届かない」こともあるので、ポケベルももっている。

#### 交友関係

##### (異性)

- ・Aは、5日程前に同じ年の彼氏ができた。
- ・Bは、2歳年上の彼氏と交際している。彼は高校中退したが、この春から通信制の学校に行き始めた。「結構毎日」彼氏に食事を作っている。
- ・理想の結婚相手は、「みんなに好かれ、誰に対しても優しい人」(B)、「みんなに好かれている人」(A)。
- ・2人とも、好きな人でなければ、性行為はしたくないという。
- ・Aは、性行為の経験がない。Bは、コンドームを使った避妊方法をとる。「一回破裂ことがある」が、妊娠が怖いので、必ず避妊はする。

#### 将来の生き方

##### (進路)

- ・Aは、「いまんところは」小学校の教師になりたい。しかし、採用が少ないと聞き、商学部などの「レベルの低い」大学を受けなさいと「ママに」言われている。当初の目標は、四年制の大学に入ること。
- ・Bはダンスで「ニューヨークにいきたい」。それが無理なら化粧品会社などの美容関係に進みたいという。

##### (結婚)

- ・Aは、「絶対したい」し、子どもも欲しいという。理想の結婚は?の質問に、「かかあ天下がいい」と答える。結婚するとき、教師以外の職業に就いていたら、仕事は辞めたいという。
- ・Bも、子どもが欲しいという。現在も彼氏の家に行き、家事をするなどの「結婚生活」を送っている。

##### (加齢)

- ・Aは、自分が年をとるのは「やだ」し、10代が一番いいと考える。Bは、早く20代になりたいという。理由は、遊び方が広がると考えたため。
- ・Aが、タレントとしてかっこいいと思う女性は「和田アキ子」。「いい位置」にいて、みんなから尊敬されていると考えたため。
- ・Bがなりたい女性のイメージは、「みんなから好かれて」いる人。いじめられた経験があるため、嫌われるのが怖いという。

#### 自己評価

- ・怖い経験は?の質問に対しては、「男の人に酒を飲まされ、家に連れて行かれたこと」

- (B)、と答える。Aは、「通学途中、バイクに乗った男に後をつけられ、いやらしいことばを言われた」経験があるが、怖くはなく、「むかつく」と思った。
- ・Bは、ダイエットの経験がある。理由は、「やせてきれいになりたい」。Aは、やろうとする気持ちはあるが、あまり行動にうつしていない。
- ・外見で気になるところは、「太もも」(A)。
- ・恥ずかしいと思うときは、「階段から落ちたとき」(B)。

#### 援助交際について

- ・2人とも知らない人と「援助交際」をしたことはないという。Aは、知らない人から声をかけられたことはある。「遊ぼうよ」と、誘われる事が多い。相手は「20前後」(A)、「18」(B)くらいの男性が多い。「ナンパ」された経験は?の質問には、2人とも「ある」と答える。その人達には電話番号を教え、その後も遊ぶことがあるという。
- ・Aの友達で、援助交際をしている人がいる。また、四万円でおしつこをかけ、パンツを売った友達もいる。相手の男は、「おな中(同じ中学)の子の、男の子の、先輩の、親父」だった。使用済みのパンツを売ると、五千円もらえた。Aは、それに対して、「親の顔見たら、ごめんなさい」とおもってしまいそうなので、売ることはしなかったという。性行為と、パンツ、どちらがいや?の質問に、性行為と答える。理由は、「体を触られるといや」だから。
- ・Bのまわりには、援助交際をしている人はいないが、「見た感じ、やってそうな人」はいるという。
- ・Bは、パンツを売ることに対し、「したら、自分が終わる」と考える。A、Bとも、お金をもらい、洋服などを買うという話をきくと、「いいなあ」と、「その時点」では思う。しかし、「その前のことを聞くと、なにやってんだろう」(B)「働かなくちゃ」(A)と思う。
- ・援助交際をしている人に対しては、「かまわない」(A)、「いつか痛い目見る」(B)と思うが、仲のいい子がしていたら、「やめさせる」(B)と答える。しかし、Aの友達については、「その人の友達がみんなやっている」ため、「結構しようがない」(A)と思うと答える。・マスコミの、援助交際の取り上げかたは?の質問には、誰もがやってると思って欲しくない」(A)「みんなが、そういう訳じゃない」(B)と答える。
- ・買う側の男については、「そんなにいいかなあ」(B)「かわいそうだな」「飢てる」と思っている。
- ・「おやじ」のイメージは、「エッチ」(B)。A、Bとも、自分の父親は、おやじではないと答える。おばさんのイメージは、「強い」(A)。Aは、30過ぎたら「おばさん」であると思っている。Bは、35歳からが「おばさん」であると言う。

#### 男女平等について

- ・Aは、「高校生が軽く見られていると思うことはある」と答える。女子高校生は、全員「処女がない」「援助交際、テレクラの経験がある」と思われてしまっているという。
- ・ミスコンについては、2人とも何とも思っていないようであった。

- ・Aは、兄と自分で、親の態度に違いがあると思っている。旅行に行くときも、兄のほうが、「いいよっていわれるほうが多い」し、家事の手伝いも、女のほうが多いと思うという。
- ・Bの考える、女らしい女性は、山口智子。見ていて「考え方も」かっこいいと思うから。「サバサバした」「男っぽい」考え方がいいという。嫌いな男は「俺について来いよ」タイプの人。・Aの考える、男らしい男性は、渡哲也。理由は、「雑誌とかで」男性らしい人とよくいわれているから。みんなから尊敬されている人がいいなと思っている。

### [第11回 要約]

実施場所：清瀬

被面接者：A：高校3年生

\*部活の帰りで、上下ジャージという服装。部活のバレーボール意外にも少林寺拳法を習っている。面接中は、こちら側の質問に対して一つ一つ真剣に考えながら答えていた。

#### 学校環境

- ・公立の男女共学校。高校までは、自転車で40分かけて通っている。
- ・部活はバレーボール部に在籍しており、副部長である。
- ・校則は全くない。
- ・現在の高校には、“自由な校風”を期待して入ったが、クラスや部には“自分勝手”な人が多く、学校生活全般に対して不満を持っている。
- ・厳しい先生はない。進路相談などはなく、志望の大学を紙に書いて出すだけであった。

#### 家庭環境

- ・父、母、妹の4人家族。
- ・両親は、本人が決めしたことには絶対反対しない。
- ・家庭以外での不満や愚痴は、家庭の中に持ち込めない。自分には自分の世界、親には親の世界があるので、お互い口を出さない。進路のことなどは相談する。
- ・妹は“変わってる”。まじめな話はしない。

#### 交友関係

- ・いろいろなことを話せる友達はあまりいない。
- ・少林寺拳法を習っており、老若男女とのつきあいがある
- ・彼氏はない。
- ・周りの人は皆“ライバル”だと思ってしまう。

#### 経済生活や日常生活

- ・アルバイトはしていない。お金が必要なときは親からもらう。

#### 情報環境

- ・ポケットベルやP H S等は、もっていない。

#### 将来の生き方

- ・高校卒業後は、大学進学を希望している。ゴリラの生態に关心があり、動物保護に関する職に就きたいと考えている。

#### 自己評価

- ・生きている間は、自分という人間をつくっていくことが目標。自己確立とは自分を好きになること。
- ・今の自分は全部が好きというふうには言えない。
- ・常に人のことを考えようと思うが、“やったって分かってもらえない”と思ってしまうところが自分の良くないところ。

#### 援助交際について

- ・援助交際してる子は、自分の周りにもいないし、自分もやっていない。
- ・女子高生イコール援助交際みたいに結ばれるのは良くないと思う。
- ・マスコミの報道は騒ぎ過ぎ。
- ・援助交際に関する情報は自分の周りにはあまりなく、テレビで聞くだけである。
- ・援助交際している女子高生、買う人、それを報道するマスコミに対して“ばかだなー”と思う。
- ・援助交際している子の目的は、服とかアクセサリーを買うためのお金を得ること。本人にとっては”価値の低いもの”。自分はそんなことまでしてお金は欲しくないと思っている。
- ・援助交際してる子に対しては、”誰かに迷惑かけることがなく、自分で責任をとれるんだったらその人の勝手”だと思う。
- ・親に対する迷惑とは、自分のことを期待してくれている親を失望させることだと思っている。
- ・買う側の大人に対しては、“自分がうまくいけばいいという自分中心な考え方だから、楽しいと思うことにお金まで払ってそういうことする”と思う。
- ・援助交際と売春は、似たようなもの。女人人が買われるという点で同じ。

#### 男女平等について

- ・男の人が女人をお金で買うことに対しては、“丸め込まれちゃう女の子の方が悪いと思う”。
- ・学校で、男の子と違う扱いを受けたことはない。
- ・女性は、“男性と違うやり方で対等に立てるようにすればいいと思う”。

#### [第12回 要約]

実施場所：立川

被面接者：A…新高校3年生

B…新高校3年生

\*クラスメートの二人。主に話し出してくれるのはAで、Bにとっては普段考えない話

題が多かったため、発言は少なかった。テープ終了後の会話からも、参考になる発言があったので、要約にはそちらのことも載せる。

### 学校環境

- ・私立の女子校（2人とも電車通学、自宅は、A…八王子・B…羽村）。
- ・1年のときは、無理なことをして疲れたが、クラス替えがあり2年のクラスからは気の置けない友人と10人ぐらいのグループで、バカやって騒いでるのが楽しい。
- ・授業はつまらなく、誰も聞いていないが、友達としゃべるのが楽しいから、学校も楽しいととらえている様子。
- ・学校の先生は年寄りが多いが、中には話をなんでも聞いてくれる先生や友達のように接することのできる先生もいる。
- ・校則は厳しく、風紀の時間があり、指導が入る。ピアスは最近緩和されてきている。

### 家庭環境

- A：両親と姉（21歳）、妹（13歳）。母親はパートで仕事をしている（洋服のメーカーの下請け）。女ばかりの中での父親の存在をかわいそうだというが、本人は父親ともしゃべるようだ。家族の中では、姉としゃべることが多い。
- B：両親と姉（19歳）。母親はやはりパートで働いている（肉工場）。父親とは会話がないらしい。姉とはしゃべるが、恋愛の話などは友人にすることの方が多い。

### 交友関係

#### （友人）

- ・2人とも、2年になってクラス替えがあってからのグループでの仲間。10人単位でいつも行動しており、けんかや争いごとはない。比較的、言いたいことは言い合い、その場で何か不満があっても割り切っているといっているところ、真面目な（真剣な）話しあはずにおチャラけた方向へ流れ、真剣になったことがないと言っているところなどから、あまり、深く（私の私見かもしれないが）は付き合っていないようだが、同時に「なんでも言えて」「無理をしていない」付き合いであるため、随分楽であるとも言っている。
- ・Aは、多趣味で、軽音部のほかに吹奏楽団に所属、サッカーチームに参加したり、暇を見つけてはジョギングしたりしている。その関係から、知り合いは多いが、その多くは真面目で堅い人が多く、遊んだりはせず、やはり友達といふ時の方が楽しいようだ。

#### （異性）

- ・2人ともつきあっている人はいない。合コンに誘われても、属しているグループでつきあってる子のいる子はいないが、合コンに誘われても参加せず、グループで騒いでばかりいるようだ。

### 経済環境や日常生活

#### （収入源）

- ・2人ともバイトをしていた（Aは長期、Bは短期）が、現在は何もしていない。お小遣いを必要に応じてもらっているが、Bは、短期バイトでの収入を普段の生活費

に当てており、その方が次に親からもらう時の金額が上がるのだという。

#### (使い道)

- ・カラオケや食べに行った時など食費、洋服などは親との買物で買ってもらう。普段抑えて、使う時に使うという考え方。Aはお金に不自由してないと感じているが、Bは不自由と感じているようだ。

#### 将来の生き方

##### (進路)

- ・二人とも進路については、漠然としているようだ。

A：音楽関係の仕事につきたいので、音響を勉強できる学校（専門・大学）を考えている。が、いろいろやりたいことがあって、まだ一つには絞っていない。

B：資格を取れる専門学校か、短大。行けるところに行く。親には姉と同じ短大に行くよう勧められるが、それは嫌だという。家から遠く離れたくないので、近所に介護福祉の施設があることから、資格を持てば近くで働けると考えていて、特に福祉に関心があるというわけではないようだ。

##### (結婚)

A：前は一刻も早く結婚をしたかったが、今は、やりたいことをやらないうちはきっと後悔するだろうから、夢をかなえてから結婚をしたい。友達には結婚という柄ではないといわれている（飽きっぽい）。結婚をしたら、その後は仕事をすっぱり止めて、家庭に入りたい（古い考えだと自分で言っている）。子どもがいないうちは外で働いてもいいが、子どもができたらうちに入りたい。

B：結婚は考えたことがない。相手がいなそうだと思っている。母親のようにパートをしたくないので、資格を持ちたい。

#### 理想とする男性像

A：結婚して自分が働かなくても生活できるだけの収入があり、家族をいろいろなところに連れていってくれるような行動力のある人がいい。加えて口うるさくなくて、優しい人、顔もかっこいい人が目に入る。友達からも、理想が高いといわれる。

B：考えたことがない。友達ともその話題で話すことがない。

#### 理想とする女性像：

A：結婚しても自分の生活を持っていて、1人でも自立してやっていける人。モデルとして母親をあげている。

B：いとこのお姉さんに、家を出てデザイナーの仕事をしている人がいて、その人がモデルだが、母親に言うと、自分には技術や才能がないから無理といわれる。

#### 情報環境

A：PHSとベルの両方を持っている。Bいわくあまり家にいないため、連絡を取るのにとても便利らしい。

B：ベルのみ利用。

#### 自己評価

- ・恥ずかしいと思うことについて、Aは、時事など聞かれた時に、その知識がない時をあげた。2人はグループでシモネタで盛り上ることが多いといったが、個人的な質問になると恥ずかしさを感じるが、グループで話している分には、楽しさの方が大き

い。

- ・女子高生関連の報道などから、自分たちは遅れているのかと感じている。（テープ終了後に「私たち、普通ですか？」という質問あり）
- ・Bは、友人に「お母さんみたい」だとなつかれていますに、自分はふけているのかしらと悩んでいる。背が高いのを気にしているのに、「おつきくなつたね」といわれることがあり、それも気にしているようだ。

#### 援助交際について

- ・援助交際をしているという噂になる子は学内にいる。自分たちとは違う世界だといい、話も、本人から直接聞いたものではないため、本当かな…という気持ちがあるようだ。
- ・援助交際とは：以前はカラオケ行ってお金をもらうだけで、身体の関係のないものを援助交際だと思っていたが、（報道などから）身体の関係ありも援助交際に入っており、売春との境界がわからない。買う側も今は、セックスありを求めているのだと思う。

#### (する・しないの違い)

- ・お金の力が大きいとは思っている。自分たちは、バイトをしてのお金をがんばった結果のもので大事に使いそだとしている。ある意味、そういうお金に価値を置いているようだ。
- ・何かきっかけがあるのかもしれない、その一つに環境（友人関係）をあげている。1年の時は、周りが夜遊びや繁華街での遊びを好み、無理に付き合っていたところがあったという。

#### (どう思うか)

- ・怖い。後悔しそう。
- ・簡単にお金が入ること・金銭感覚がなくなりそう・一年の時援助交際をしていた（らしい）子が、「後悔するからやめな」とみんなに言っているのを聞いた

A：新宿でやくざ風の男にカラオケをつきあうだけで（友人と2人のところ、それに）5万円だと札束をちらつかされた体験あり。しつこいのでふっきて逃げたが、怖い体験だったようだ。

B：友人と2人で歩いてるところに、車に乗った男（4人）に「送っていくから」と声をかけられ追いかけられ、逃げて隠れた体験あり。

自分ならしないか：絶対にしない。その理由に、怖さをあげている。

A：上記の場合のように、やくざ風の男でないにしても、ついて行かないという。続いている（カラオケだけではすまない）怖いという。親の顔（泣いている）が浮かぶとも言う。買う側について：もっとしっかりしろ、と思う。自分の父親が、女子高生を買ってたりしたらと思うと、嫌だ、気持ち悪いと感じている。

#### (援助交際報道の影響)

私服だと痴漢にあわないので、制服だとあう。女子高生がみんなやっていると思われることは、嫌であると感じている。

#### 男女平等について

- ・特に男だから女だからという差別を感じたことはない。
- ・（セクハラの話題から）学校の老教師で、授業中などにいやらしい発言（ことばでの

セクハラと彼女たちは感じている)が多い人がいて、現在辞めさせるべく運動が行なわれているという。・体育の女教師に、女は厳しくするとすぐ泣くからという人がいるが、その人自身がきりつとしており、自分たちはチャラチャラしてみてもしょうがないといった捉え方をしている。

#### 援助交際と男女平等について

男女平等の視点からというよりも、お金を持っている人と持っていないとの関係で考えているようだ。

#### [第13回 要約]

面接場所：国分寺

被面接者：A：高校2年生：ショートカットに赤いカーデigan。

B：高校2年生：肩までの黒髪に、黒いズボン。

\* 2人は中学校の同級生。2人とも化粧はしておらず、服装も普通。面接者の質問には、淡々と答えていたが、進路や結婚、将来の事などについては、あまり考えたことがない様子。

#### 学校環境

- ・ Aは杉並区にある私立の共学校。通学は、鷺の台駅から西武線を利用。プラスバンド部に所属している。学校は楽しいが、先生が「いろんな事に」うるさいという。校則は厳しくないが、「抜き打ち検査」がある。遊びに行くときは、吉祥寺に行くが、普段は部活があるため、あまり遊びには行かない。
- ・ Bは私立の女子校。通学には鷺の台駅から西武線を利用して行く。校則は厳しいが、学校は、「友達といふこと」が楽しいという。「めんどくさい」ので、ルーズソックスは、はかないという。茶道部に「一応」所属しているが、放課後遊びに行くことはほとんどないという。自分のことを「真面目」で「気合いが入っていない」という。

#### 家庭環境

- ・ Aは、両親と祖父、第二人と住む。母親(主婦)に対しては、「口うるさい」というが、父親は「そうでもない」という。両親の仲は「一応」いい、という。
- ・ Bは、両親と姉、弟の五人家族。姉は現在、海外に留学中である。父親は帰宅時間が遅く、家にいる事は少ない。母親は公民館で手伝いをしており、昼間家にいる事は少ないという。Bは時々、家の手伝いをする事がある。

#### 交友関係

##### (異性)

- ・ 2人とも、今まで男性と付き合った経験はない。彼氏は欲しい?の質問には、「一応」欲しい(A)と答える。
- ・ 芸能人で好きな人は、「(V6の)三宅健」(A)、「ブラッドピット」(B)。
- ・ Aの好きな男性のタイプは、優しく、周りの人に気が使える、「あんまり激しくない」人。激しいとは、金髪である人のことを言うらしい。

- ・Bも、似合っていない茶髪や長髪はいやだという。そういう人を見ると、「ばかじやん」と思う。
- ・異性を見るときの基準は?の問いに、「性格」(A)、「落ち着きのない人や、今時の人のはいや」「自分の思ってる事をちゃんといえる人がいい」(B)と答える。二人とも、異性間の友情については、懐疑的であった。

#### (同性)

- ・Aは、友達と部活やクラス、ドラマの話をする事が多いという。
- ・Bは、友達と「くだらない事」を話題に、話をしている。しかし、たまに男女平等について話合う事もあるという。
- ・親友はいる?の問いに、Bは「普通より仲のいい子なら」と答える。Bの考える親友は、「心の支え」になってくれる人であり、現在そのような友達がいるかどうかは「わからない」らしい。Aも、「仲のいい人」ならいるという。
- ・中学の時の友達は、「友達の枠を超えた」仲間であるという。
- ・Aは、きつい事をいう友達に、「ちび」などといわれると傷つくが、気にしないようにしている。

#### 経済生活や日常生活

- ・二人とも、アルバイトはしていない。Aは、やりたいとは思っているが、親が反対している。・お小遣いは、二人とも、五千円が八千円になる予定である。使い道は、「コンビニでお菓子」(A)。洋服代は、別にもらう事ができるという。化粧は、たまにする。

#### 情報環境

- ・二人とも、ポケットベルを持っている。

#### 将来の生き方

##### (進路)

- ・Aは高校卒業後、附属の大学への進学を考えている。学部の志望は、あまりないという。
- ・Bは、大学には行きたいが、附属のところはイヤだという。具体的な勉強は、まだ始めていない。

##### (将来)

- ・二人とも、大学卒業後のこととは、あまり考えていない、好きな事(趣味など)を生かして仕事をしたい?の問いに、「好きな事ねえ…」と考え込む。

##### (結婚)

- ・Aは、結婚のことなどは考えないという。
- ・Bは、「結婚はしたくない」という。理由は、「毎日同じ人が帰って来る」こと、「束縛される」ことがいやで、「自由で生きたい」から。

#### 自己評価

- ・街を歩いてる高校生を見て、どう思う?の問いに、「勝手にやって」(B)「ああ、すごい」(A)と答える。二人とも、そのような格好は、したいとは思わないらしい。
- ・Aは、みんなに親しみを持ってもらうため、「ちょっとうるさい自分」を売りにしている。・自分の嫌いなところは?の問いに、二人とも「脂肪のあるところ」と答え

る。二人とも、洋服のためにやせたいという。また、Aは、男性にスリムな人が多いので、やせたいともいう。その他に嫌いなところは「食べ過ぎる性格」。Bは、マイナス志向の自分の性格を、快く思っていない。親や、友達に自分の性格についての悩みは打ち明けず、すべて一人で抱え込み、落ち込んでしまうときもあるらしい。

- ・恥ずかしいと感じるときは「学校とかで滑って転んだ」（B）とき。二人とも、知っている人には、恥ずかしいところを見られたくないという。

#### 援助交際について

- ・二人とも援助交際とは、「まったく関係ない」生活を送っている。友達にも、そのような人はいないという。しかし、Bの学校は、「一部の人」が援助交際をやっていそうであるという。・テレビなどの援助交際の報道をみても、「ああ、女子高生だ」（A）と、別の立場からみてしまうという。また、そのように報道されている人たちは、「激しい人ばっかり」（B）なので、あまり騒いでほしくないとも思っている。
- ・友達が援助交際をしていたら？の問いに、二人とも、「仲のいい（別の）友達に匿名で相談する」と答える。二人とも援助交際を止めさせたいとは思うが、どう止めてよいかがわからないらしい。
- ・体を売るという行為に対しては、「普通のアルバイトをしても、お金は手に入る」（A）「（体は）武器にするようなものではない」（B）と、どちらも否定的な態度をとる。また、Bは、体は「生きるためのもの」であるという。食事をして、お金をもらう事に対しては、漠然と、よくないことであると思っている。あまり、このような事は、考えた事がないといい、口数も少なかった。
- ・Aは、「そこまでお金に困っていない」ので、援助交際はしないという。援助交際の話題は、「気にもとめてなかった」。

#### 男女平等について

- ・Bの家は、自分や姉に対するときと、弟に対する時の、親の態度が違うという。Bは、それを、年齢の差によるものだと思っている。
- ・Bは友達同士で、「男女平等は色々なところで差別がある」という話を、たまにする。本人は、実際に、男女が平等ではないと感じた事がないわけではないが、「よく覚えていない」らしい。しかし、男女差別は、社会的、家庭的にもあると考える。Bは、日常生活で差別を感じる場面にあうと、「女を何だと思っている」と思う。
- ・Aの学校では、異性には甘い教師がいる。Aは、そのような教師は「いけないな」と思っている。Bの学校でも「ちょっと君やばいよ」と思う先生がいる。
- ・Aの友達の通う学校で、教師が生徒に「死ね」といって問題になったという。Aは、その話を聞いて、「そういう先生もいるのか」と思った。
- ・Bは、差別について、「男だけに責任があるとは言い切れない」という。理由は、女の方から仕掛ける事も多いだろうというもの。Aも、その考えには同感であるという。
- ・Aは、祖父の「女だから～」の言動に、「むか」とする。ほかに、仕事の面で男女差別を感じた事がある。

## [第14回 要約]

面接場所：国分寺

被面接者：A：高校1年生

B：高校1年生

\*2人は中学の時の同級生。高校への登下校は一緒にしているが、この頃はあまり一緒に遊ばない。見た目は幼い感じがし、最初は中学生と間違えた。面接中は沈黙が多く、答えを引き出すのに苦労した。2人の雰囲気は似ている。

### 学校環境

- ・私立女子高（普通コースと英語コースがある）に通う。自宅の最寄り駅の恋ヶ窪から西武線を利用。
- ・2人とも部活には入っていない（中学校の時は吹奏楽部）。
- ・「校則が厳しい」。制服に関することが厳しく、ルーズソックスは禁止。髪は肩についたら縛り、パーマは禁止だが、みんな「微妙に」やっている。放課後の寄り道も禁止。第2・第4を抜かした朝礼がある土曜日は風紀検査がある。今は厳しい校則にも慣れているし、ばれなければいいのでほとんど無視。
- ・学校生活は中学校ほどには楽しくなく、つまんなくなく、普通である。中学校の方が楽しかったのは校則が決められているから。
- ・高校が女子高というのには違和感がなく、気が楽であるが、運動会や合唱コンクールはつまらない。
- ・Aは授業が分かれば楽しい。Aは授業は「一応」分かる。音楽の先生とは良く話す。クラスは最近「和氣あいあい」としている。
- ・Bはクラスの人数が多く、グループごとに固まっているようだ。

### 家庭環境

- ・Aの母はAが中学校に入った頃からレジのパートをしている。兄（20歳）がいる。兄とは仲がいいとは言えないようだが、喧嘩をよくする。男女のしつけの違いは自分にはどこかへ出かける時にはうるさく聞かれるのに、兄にはうるさく聞かない。
- ・Bの両親は農業を営んでおり、弟（中3）、妹がいる。

### 交友関係

- ・友達と遊ぶ時は田無か国分寺でカラオケをする。カラオケ以外では買い物を国分寺でする（田無にはあまりない）。2人で行くことが多いというよりは「みんな」を連れ立って遊びに行く。
- ・帰りに西武新宿線に乗って新宿に出るということは「面倒くさい」のでしない。
- ・休みの日は新宿よりも渋谷まで出て行く。
- ・Aは親友とは「言いたいことを言う、言える」人。Bは「何でも話せる」人。

### 経済生活や日常生活

- ・月々のお小遣いはAが3千円、Bは8千円。2人ともアルバイトはしていない。2人とも足りないとと思うが「頑張って」（A）いる。Aは足りなくなると「本買うとか言って」適当にもらひ何とかしている。

- ・カラオケは安い所に行くのであまりお金はかからない。買い物に行く時は前もって買うものを決め、他の物は買わない。（A）
- ・2人とも現在は彼氏がない。男性の好みは「いい人」「いろんな人々に優しい人」（A）、「優しい人」「話が合う人」（B）。嫌いなタイプは「暗い」、「オタクっぽい」、人との付き合いはあっても「そういう人」との付き合いしかなさそうな人、サーファーみたいな人（長髪で腰パン）。ちなみに好きな芸能人は「柏原崇」（A）「竹内ひろゆき」（B）。

#### 情報環境

- ・AはP H S、Bはポケベルを持っている。友達との連絡に使用。

#### 将来の生き方

- ・Aは将来、雑誌会社の記者かラジオのD Jになりたいと考えている。Bはファッショニ・アドバイザー。高校卒業後は2人ともその勉強ができる大学か専門学校への進学を考えている。・結婚についてAはする時がきたらするが30ぐらいまでにはしようと考えている。結婚後も仕事を「続けられれば続ける」。
- ・将来のモデルとなる人はいない。「なるようになる」が「自分がやりたい仕事をしている人になりたい」（A）。Bは結婚もしたいが仕事もしたいと考えている。子どもが出来るまでは忙しくないので仕事をしたいと考えており、共働きになると別れるかもしれないが仕事もしたい。

#### 自己評価

- ・自分の好きな所は考えたことがない。
- ・自分の嫌いな所は「面倒くさがり屋」（A）、テスト前で「本当にやばい」のに、「平気だ」と言ってしまう所（B）。
- ・恥ずかしいと思う時は失敗した所を見られた時（A）、「ボケてる」と言われた時（B）。
- ・自分の性格は「呑気」（A）、「マイペース」（B）。

#### 援助交際について

- ・お金をもらったりすることが援助交際（A）。ナンパとの違いはお金の授受と年齢差。その年齢その年齢に合った交際相手がいるのでおじさんと高校生を考えられない。もう1つは相手の考え方。おじさんたちが援助交際をやってると思えば援助交際。援助交際と売春の違いはない。援助交際をしている子たちはお金が目的。
- ・2人の学校で派手だと言っても他に比べれば派手ではない。
- ・渋谷の女子高生を見かけると「あらー」（A）と思う。
- ・テレビでの高校生に関する報道についても「あらー」と思い、関係がないと思っている。
- ・高校生というだけでおばさんにジロジロ見られることがある。
- ・Bはカラオケ屋の前で友達を待つて居る時に40ぐらいのやらしそうなおじさんに誘われたことがあるが断った経験がある。
- ・高校生に声をかけてくるおじさんには「信じられない」（B）、「こういう人もいるんだな」（A）。誘われて付いて行く女の子には「バカだなあ」。
- ・2人とも誘われても付いて行かない。それはホテルに連れ込まれる危険があるからで

ある。そして、自分の体を「道具」にして金品を得ることは嫌である。

・している子と自分たちとの違いは「考え方」。Bはお金が欲しいならばバイトをする。

#### 男女平等について

- ・女性が働いていくのは大変だと思うが、それは家事をしなくてはならないから（A）自分は分担をするだろう。女性ということが障害になるとしても男性よりも飛び抜けた能力があれば良い。男の人には力があるから今の男女関係は続いて行くと思われる。
- ・もし生まれ変わるとすればAは男、Bは「女でいい」。Aは女のねっちょい喧嘩やイヤミが嫌で、サバサバした男性がいい。
- ・Bは女性の方がきれいでいいと言う。男性は素顔のままでいなくてはならない。Bはお洒落が楽しい。
- ・「性の商品化」という言葉は聞いたことがない。
- ・女らしいというのは「裁縫」などの家事ができる。Aは自分は行儀が悪いので女らしくないと考え、女らしくなりたいとは別に思わず。家事などはある程度できればよい。
- ・男らしいというのは「たくましい」人（A）、「何か1つのことに一生懸命」な人（B）。
- ・たまに露出狂に遭う。

#### [第15回 要約]

面接場所：国立

被面接者：A：高校3年生

\*今回の面接者は第9回のリピートであり、この面接ではどのように自分のことは自分で決めると考えるようになったか、両親との今までの関係を見るに焦点を当てたものである。従って、援助交際そのものについてはあまり触れていない。

現在は母親との信頼関係があり、1人の人間として見ることができるが、それは母親と話し合いすることによって築き上げられたものである。父親とは母親との信頼関係は「特がない」が、父親がいてくれて感謝はしている。自分の悪い所に関して、それが両親の嫌のせいだとは考えてはいない。

#### 母親の基本方針

・命を危険にさらすようなことは禁止。

ex.スノーボード（Aは実際にしているがこれは母親も知っている）、バイクなど。

・自分で責任を取れない行為は禁止。

ex.これは兄が彼女と2人で旅行に行く時に兄に言ったことであるが、性行為をすることとはしようがないが、2人ではまだ責任を取ることができないのだから子どもは出来ないようにすることということがあった。

・Aには基本的な禁止事項以外は何においても経験させ、自分で気付くまで待つ。ただし、あまりにもAが「暴走」するようあつたら止める。何かをする前に考えてその行動を止める姉とある程度は暴走するが脱線までしない兄とは違い、Aは自分実際に

してみて痛い目を見なければ分からず、言われるだけでは分からない性格である。母親はそこを理解しているようである。

- ・Aに選択肢を示すことはするが、実際に決めるのはAに任される。

ex.母親は現在の高校を調べ、こういう高校があるということもAに示したが実際に受験するかどうかはAに任された。

- ・家族は家族でも他人であり、1人の個人である。

#### 父親の基本方針

- ・お金に関するこには厳しい。

ex.高校生が車を買うと保険金も高いし、車貧乏になってしまうので。

#### Aと母親の現在の関係

- ・母親を1人の人間として見ることが出来、信頼関係がある。

・友達感覚で家族の中で1番何でも話すし、母親は3人兄弟の中でAと一緒にいると気が楽だと言う。

・母親とぶつかって出来た信頼関係において、母親が信頼している部分は絶対に裏切らない。嘘をついたとしても自分から全部ばらしてしまう。

・母親は年齢の分いろいろな経験をしており、Aにその経験を話してくれる。

・姉に「お母さんの育て方が間違ったのよ」と言わされたと母親がAに泣きながら話したこともある。これに対して親が家庭の愚痴を外で言うわけにはいかないので、子が親に愚痴をこぼすことが当然のように出来るだけ聞いてあげようと思っている。

#### Aと母親の今までの関係

現在の関係にまで、すんなりと来たわけではない。母親の方針を理解できずに不信感、不満感を持ったり、わざと怒られるために「暴走」したこともある。しかし母親はあまり怒ることではなく、本人が気付くまで待っている。この2人の気持ちのすれ違いに対してAは母親と何度も時には泣きながら話し合った。

##### ・中学生の頃

家に居ても居心地が悪く、帰りたくなかった。いじめられた時にその友達について何かを言ったことはあるが、特に母親と話すようなことはなかった。

Aは私立中学に在籍。周囲の友人の母親は子どもにいろいろと世話を焼くこと（勉強をする時に夕食を作つてあげたり、勉強をするように言つたり、中学よりもレベルが高い高校への進学を期待したり）が多いが、Aの母親は1番心配してくれたが全部Aに任せていたため、逆に放つておかかれていると感じたり、何も言わないので母親の本心はどこにあるのかと母親に対して不信感を持ったり、不満感を持ってたりした。友人が親に怒られたと聞いてうらやましく思い、母親に怒られそうなことをいろいろとしたことがある。が、やはり怒られなかった。

これに対してAは母親に本当の気持ちを話して欲しいと泣きながら聞いたことがある。やはり母親の本心は高校へ行くのも、勉強するのもAなのだから、自分で選ぶようにということであった。母親があれこれ言ってAに後悔させて責任を母親になすりつけられるのも困るということであった。しかし、Aが母親のこの考えが分かるまでには時間を要した。

また、なぜ怒らないのかと母親に聞いた時に、自分で気付くのを待っている、家族も

他人であると言われ、辛く寂しいことしか言えないのかと泣きながら言ったことがある。現在では家族は家族だが1人1人が個人であるという母親の気持ちを理解できるようになった。

・高校生の頃

Aが「がたがた」し始めた頃。高2の時にアメリカにホームステイに行き、誰も抑えてくれる人がいざ自由な空気のもとで、ピアスをいっぱい開けたりする。日本に帰つて来て、「何やってんのー」と言われたものの怒られはしなかったので、さらに何かをしているうちに自分で馬鹿らしくなる。そしてピアスの穴をふさいだことを母親に言うと「やっぱり馬鹿馬鹿しいでしょう」言われ、自分の気持ちが母親に分かっていることを知る。

暴走する人と途中で気付く人の違い

- ・自分自身で嫌いな所ではあるが、根が真面目であるということ（根が真面目そうだと周りの人は付き合いたがらないし、真面目ではない方が友人も多そうだったので、真面目ではないように装ったこともある。しかし、実際にやってみると友人と付き合いも「見かけ倒し」だったりする）。
- ・Aは大人と付き合う機会が多く、大人からいろいろ学ぶという 経験があった。
- ・暴走する人は親ががみがみと言い過ぎ。
- ・暴走しない人は自分の目標、将来の目標を持ってしっかり持ち、自分のことを考えてる人で、多少暴走してもある程度自分でブレーキをかけることができる。
- ・暴走する人は「精神年齢が低」く、自分は自分で抑えることが出来ない。自分で考えず、辛いことを避け、周りに流され、他の人の楽しそうな部分だけを追うから、歯止めが利かなくなる（他の人は辛い部分を踏まえるからこそ、それが楽しいのであるが、周りに流される人は楽しい部分しか見えず、それだけを追い求める。しかし、それを楽しくする土台がないために余り楽しくなったりするので、さらに楽しいことを追い求めエスカレートしてしまう）

男女平等について

（女性が就職に不利だということについて）

- ・自分達の世代は「チャラチャラ」しているので、就職する年齢になつてもそういう目で見れてもしようがない。
- ・今まで男性は家庭を持っているので働かなければならず安い給料でも一生懸命働くが、女性は仕事を選ぶし、子どもが出来ると退職してしまう。こういうことが積み重なって現在の状態に至っている。
- ・アメリカのように男性も休める産休制度が出来れば女性も働きやすくなる。今の日本ではそういう制度がないので能力をつぶしている女性もいるし、結婚できない女性もいる。

[第16回 要約]

面接場所：武藏小金井

### 被面接者：A：専門学校1年

\* 3月に高校を卒業し、現在は英語の専門学校に通っている。ショートカットで活発な印象を受けた。こちらの質問に対しては、何でもハキハキと答えてくれた。外国の映画を見るのが好きだという。

### 学校関係

- ・都立の男女共学校。小平の自宅から学校までは、自転車で15分かけて通っていた。
- ・校則は厳しくない。一応校則でアルバイトは禁止されているが、先生は黙認している。ピアスも体育の際ははず程度。
- ・部活はハンドボール部に入っていたり、キャプテンだった。
- ・先生とは授業以外は何も話さない。部活の顧問の先生は好きだが（現在でも連絡をとっている）、いろいろ話せるという感じではない。
- ・1年生のときは、周りから“怖い人”というふうに見られ、友達もいなくて楽しくなかった。2年生になってから部活が楽しくなった。

### 家庭環境

- ・両親、兄2人、祖母の5人家族。
- ・上の兄（23）は就職している。下の兄（21）は、一度大学を中退して美大に入りなおしたが、それも休学すると言っている。彼女いわく“何してんのかよく分からない”。兄弟で顔を合わせて話をするということはない。
- ・両親の仲は、喧嘩しつつも仲良くやっているという感じである。
- ・家族全員で食事することはない。食事の片付けや準備は各自でするという家庭。
- ・“家族愛”がないと思う。兄弟3人、あまり親を大切に思っていない。そういう自分は嫌である。将来、自分の家庭みたいにはなりたくない。
- ・一般的に、母親は娘よりも息子の方がかわいいのではないかと思う。Aの母は下の兄ばかり心配して、やきもちを焼くことがたまにある。
- ・母親のようになりたいとは思わない。

### 交友関係

- ・卒業した今では、部活の友達が一番話しやすい。ただし、クラスにいればクラスの友達とも仲良くやっていた。
- ・友達とどこか遊びに行くということはあまりなかった。1人で買い物したり映画を観たりすることが多かった。
- ・付き合ってた彼氏はいたが、2ヶ月ほど前に別れた。同じ高校の人が、学校の帰りにほとんど毎日彼氏の家に行っていた。
- ・性経験はあり、避妊のケアはしていた。学校の友達が妊娠し、怖いので。
- ・好きな男の人のタイプは、“おもしろい人、尊敬できる人、頭の回転の早い人”。芸能人で言えば“高田純次”。
- ・嫌いなタイプは、自意識過剰の人。
- ・別れた彼氏は好きなタイプではなかったが、付き合ってから好きになったという感じ。

### 経済生活や日常生活

- ・現在のバイトを始めたのは、推薦で専門学校が決まった12月頃から。

- ・高校生のときは基本的に5千円で、必要なときにはもらっていた。現在は、母親が通帳に半年分ぐらい入れ、それを自由に使うという感じ。
- ・使い道は、主に服。P H Sの通話料は自分で払っている。

#### 情報環境

- ・高校時代、ポケベル・P H S等は持っていないかった。周りも持っていないかった。バイトをし始めた頃からP H Sを持っている。

#### 将来の生き方

- ・将来の仕事のイメージは持っていない。
- ・英語の専門学校に進学したのは、外国の映画を字幕なしで見てみたいから。
- ・“あまり社会に早く出たくない”と思っている。専門学校を休学することも考えている。また、同系列の4年生大学に編入するか、別の大学を受け直そうかとも考えている。
- ・Aの家は代々農家であり、両親の結婚は“政略結婚”みたいな感じがあった。母親は喧嘩したとき、“お母さんにも好きな人がいたのに”と言う。A自身は好きな人と結婚したい。
- ・具体的にモデルとする女性はいない。いつまでも若くいたいとは思う。
- ・結婚はいずれするんだろうと思う。
- ・結婚したら家に閉じこもるのは嫌だが、子供が生まれると分からぬ。

#### 自己評価

- ・あまり親を大切に思っていない自分が嫌である。

#### 援助交際について

- ・テレビに出てる子は一部の人たち。私立で都会の方の学校の人たち。
- ・援助交際は自分には分からない世界。
- ・マスコミの報道で自分自身が影響を受けたことはない。電車にも乗らないし、自分は“イケテナイ”から。
- ・援助交際してる子に対しては、好きでやってるんだったらしいと思う。
- ・お茶を飲むだけだったら“人助け”だと思う。
- ・自分は援助交際をやる柄ではない。
- ・援助交際をやってる子は、周りもやってるから私もやるというのが大きいと思う。
- ・東京都の条例については、買った人を罰した方がいいと思う。買う人がいるから売る女人もある。さらにはお金欲しさに女子高生までもが手を出す。
- ・肉体を金品で売買することについては、マッサージ師と同じようなもの。

#### 男女平等について

- ・売買春が女性の尊厳を低めるとは思わない。
- ・売買春は需要と供給の関係で、単に需要が男の人が多いだけ。
- ・今の日本は男は仕事で女は家庭という社会だと思うが、それも自然なことだと思う。

## [第17回 要約]

面接場所：国立

被面接者：A：高校2年生

B：高校2年生

\*約束の時間に1時間ほど遅れてくる。2人とも制服で化粧はしていない。早口でよくしゃべり、面接者に口を挟む隙を与えない。AがほけでBがつっこみという感じで話し、2人が同時に喋っていることが多い。面接者を笑わせようとして言う所もあるので話は単なるネタの所もあるようだ。言っていることが一貫していないと感じることも多かった。Aは面接中に、頭の良し悪し、頭のレベルについて触れることが多い。Aは第10回のAの双子の妹である。

### 学校環境

- ・京王線沿線の駅から歩いて15分の都立共学。国立の自宅から50分ほどかけて通う。2人ともぎりぎりに時間に学校に着く。森英恵デザインの制服がかわいくてこの高校を選ぶが、今は制服がかわいいと思わない。
- ・部活は部員が3人のハンドボール部に所属。Aは最初、部活は高校生の時にしかできないので今出来ることを一生懸命しようと思うと言っていた。しかし、最後の方では中学校の時には部活に燃えていて楽しかったが、今は部室で友達と喋るのが楽しくて行っている感じだと言う。「関東大会に行くんだ」と言って部活の先生にやる気を見せたものの、実際には部活には出ていないので先生の期待を裏切っていると思う。
- ・学校についてAは楽しいと言ったものの、Bがつまらないと言うと、一緒になって、今のクラスは「マイナー系」の暗い人が多く、静かでつまらないと言う。真面目な子が多く、話が合わず、つっこんでくれる人もいない。先輩の「つまらない」という忠告を聞いておけばよかったと思っている。中学校の時は楽しかった。
- ・校則は今年から厳しくなった。服装や身だしなみについては何も言わないが、休み時間に学校を抜け出しをすると怒られるようになった。アルバイトは部活をやって欲しいので反対するが、アルバイトで部活を休むからといって何も言われない。
- ・Aは厳しい学校の方が良いので校則が厳しくなって良かったと思う。
- ・Bは化学のテストでいい点を取ったのに、遅刻・欠席が多いために減点されたことに怒っている。
- ・Aは校長先生の話を誰も聞かないこと、教室で先生に話し掛けられても誰も答えないことに対して不満を持っている。
- ・Bは早く卒業したい。高1の時、通うのが面倒くさくて登校拒否になったことがある。

### 家庭環境

- ・Aは父、母（専業主婦）、兄（浪人中）、双子の姉がいる。家族は仲がいいが、父親はこの頃いやらしく「何かやだ」。だが、父親が帰って来ると抱きつており、姉にはおかしいと言われるが、こんな風に接してくれる娘がいて、父親は幸せだと思う。Aの彼氏に嫉妬しているようだ。姉にむかつくことがあるが、姉がAを好きなことが分かる。母親が風邪をひくとすぐに手伝う。親は頭のいい人と悪い人を区別する。語る

としたら女3人です。兄は威張るので嫌い。

- ・Bは父、母（専業主婦）、姉（国立の看護学校）、妹（小3）がいる。Bに男の子から電話がかかってくるとすぐに連れて来るように言われる。最近の生活態度が悪いので門限（7時か8時）ができた。父親が寝てから女だけずっと話している。妹は呼ばば言うことを聞いてくれる。

#### 交友関係

- ・2人は中学校からの友達。
- ・Aはアルバイト先で現在の彼氏（1つ年上）に会う。8ヶ月付き合っている。彼氏はちょっとしたことでも優しく、かわいい感じがする人。高校時代にセックスをするのは痛いから嫌だが、彼氏が高校を卒業したらセックスをする約束をしている。好きな人とは一緒にいるだけでいい。25歳までに結婚する約束をしている。必ずセックスをしたかどうか聞いてくる友達が嫌である。・Bには彼氏がない。
- ・今の高校生は「80%」がセックスを経験している。
- ・女の人はいろんな人と付き合った方がいいと思うが自分は彼氏しか見えないのでコンパに行きたいとは思わない（A）。
- ・Aはレベルが違う男女は結ばれないと思う。父親が彼氏が頭のいい所に行ってしまうとせかすので心配らしい。

#### 経済生活

- ・アルバイトはAはマクドナルド（時給700円）で現在しており、月に2万2千円ぐらい稼ぐ。小遣いは月に3500円。
- ・Bは以前ジョナサン（時給740円）でやっていた。Bはマネージャーにむかついて辞めるが、今でも人が足りない時には仕事をしている。

#### 情報環境

- ・Aはポケベル、Bはポケベルが壊れたのでPHSを持っている。
- ・AはPHSが欲しく、Bはポケベルが欲しい。
- ・Bは授業中に同じ機種を持つ友達とPHSでやりとりをしている。

#### 将来の生き方

- ・Aは将来、看護婦になりたいので、卒業後は専門学校に進む。以前は国際線のスチュワーデスになりたかったが、自分は英語が出来ないというのと、父親に「無理だろう」と言われ、あきらめた。
- ・Bは美容師になりたいと思っている。
- ・結婚したらAはカカア天下、Bは自分が強くなく普通がいい。2人とも両親の関係のような亭主関白は嫌である。母親に「ああいう人（父親のこと）と結婚しない方がいい」（B）、「ママ、結婚するんじゃなかった」（A）と言われる。
- ・Aは女の子の方が育てやすいので、女の子、男の子の順番で1人ずつ欲しい。Bは男の子が先の方が良い。

#### 自己評価について

- ・Aは自分の意見をはっきり言えない。

#### 援助交際について

- ・援助交際はHをしなければすごくいいと思う（A）。

- ・遊びに行き、食事するだけの援助交際をするのはかまわないと思う（A，B）。それがただおじさんだというだけ（B）。
- ・売春については自分の体を売るということは良くないことだが、人による（A）。自分は汚らしく、けがらわしいのでしないが、売春している人は自分がいいと思っているのだからいい（B）。
- ・高校生を買うおじさんについては「嫌な人」「気持ち悪い人」（B）じゃなかつたら別にいい。
- ・自分の自由だと思うので淫行条例で捕まるのは納得がいかない（B）。
- ・援助交際について親に怒られるのならば分かるが他人にとやかく言われるのは分からぬ（B）。
- ・売春の男女差別との関係については、「その人がいいんだったら」「いいじゃん」（B）。
- ・Bは若い人と食事だけの援助交際をしたことがある。
- ・友人にたまに会って物を買ってもらうだけの援助交際をしている人がいる。
- ・Aが中学生の時に父親とプリクラを撮っていると援助交際と間違えられた。
- ・今の高校生についての報道は失礼である。制服を着てお店に入ると万引きをしないようにと店員にくつづいてこられる。女子高生はイメージが悪いので「早く脱出したい」が「私、女子高生」とも言っていたい。
- ・2人ともアルバイト先の客に人気があり、Aは遊びに誘われるが彼氏がいる時には行かない。彼氏しか見えない。

#### 男女平等について

- ・差別は感じたことはない。クラスでも女子の方が強いぐらいである。
- ・Aの父親が車を運転して、バイクに乗った女性に「危ねえじやねえか」と言われたこともあるので、女性の方が強いぐらいだろ思う。
- ・就職で女子の採用がないことについては「むかつく」。男よりできる女もいる。「女を馬鹿だと思ってんの」（B）。

#### [第18回 要約]

面接場所：西八王子

被面接者：A：高校3年生

B：高校3年生

\* 2人とも制服で、待ち合わせの場所に現れた。2人ともよく似た服装、髪型をしていた。面接者の質問に対しては、沈黙することが多く、2人で一つの質問に答えるという形であった。

#### 学校環境

- ・都立の共学校に通う。自宅から学校までは、2人とも自転車で通う。
- ・校則は「厳しいといわれている」が、「全然平気」だという。ピアスも禁止だが、つ

けていなければいいらしい。

- ・学校は楽しいし、おもしろいという。Bは授業はつまらないというが、Aは、「しゃべっているから」楽しいという。
- ・先生とは、「友達みたい」で、CD等を貸したりすることもある。
- ・A、Bとも、軽音部に所属しているが、現在はいっていない。Bは、1年生の時、バレーボール部であった。
- ・生徒会長は「真面目な」女性がやっている。

### 家庭環境

- ・Aの家族は、祖父母、父母、妹と本人。父は、電気関係の仕事、母は主婦である。家族仲は良く、パチンコに家族で行くこともあるという。本人も、3歳の時からパチンコにいっていたらしい。
- ・Bの家族は祖母、父母、姉が2人と本人。父は、「会館の事務」をしているという。母は主婦。祖母のしつけが厳しく、口うるさいという。父は無口で、家族とあまり話さない。家事もあまりしないという。本人は、父親と話すと、「言い方にトゲがあって、むかつく」ので、あまり話さない。母親と本人、姉と本人の仲は、比較的良い。2番目の姉が、一番に家事を手伝い、Bは、その次に手伝うという。

### 交友関係

#### (異性)

- ・2人とも、付き合っている人はいない。また、過去にもいない。前は「ちょっと欲しい」と思ったが、今は、楽しいのでいらないという。学校の男子とはよく話す。Aはお金のない時に、バイトをしている男子から、パンやジュースをおごってもらう。
- ・2人とも、手が「ごつくて」かっこいい人がいいという。口の下に髭を生やしている人も好きだという。特にタイプはないという。

#### (親友)

- ・Aは、Bの事を親友であるというが、Bは最初肯定しなかった。親友とは何?の間にAは、「内緒話がない」「しゃべったことが広まらない」「家が結構近い」「いつも一緒にいる」と答える。

### 経済生活

- ・2人とも、アルバイトはしていない。
- ・Aは、一ヶ月に一万円のお小遣いをもらっているが、「最近もらってない」という。理由は、父親がパチンコに勝ったときに、お金をくれるため。Bは、七千円の小遣いをもらっている。2人とも、CDを買ったり、ライブにいったりしている。普段はお金がないため、Aの家で「毎日」遊ぶ。

### 情報環境

- ・2人とも、「異常なくらい」音楽が好きで、好きなアーティストのライブの情報は見逃さない。
- ・2人とも、ポケベルを持っている。友達と連絡を取るときや、「オヤスマニ」「オハヨウ」と、入れたり、「便利」であるという。使用料金は、Bは自分で払うが、Aは「お金に余裕のあるとき」一回しか払ったことがないという。

### 将来の生き方

#### (進路)

- ・Aは、コンサートスタッフなどの、音楽関係の職に就きたいと考え、専門学校に行くかどうか考えている。Bは、「はっきりいって、決まってない」というが、できれば興味のある、音楽方面にいきたいと考えている。

#### (結婚)

- ・Aは、結婚の事は、「全然考えない」という。Bは、結婚はしないという。理由は、「なんとなく」。家にずっといようと考えている。

#### (加齢)

- ・Aは、「今日のことしか考えていない」ので、わからないというが、祖母のように「しゃべりが速く、頭の回転が速い」人になると思っている。
- ・Bは、「今と変わらず」人のことに干渉しない人に「適当に」なりたいという。おばさんは何才くらいから?の問には、「年齢ではなく、中身」の問題であると答える。

#### 自己評価

- ・自分の中で嫌いなところは?の間に、「声がでかい」「早口」(A)、「人見知りするところ」(B)と答える。2人とも、自分のことは嫌いであるという。しかし、好きになれるような努力はしていないという。
- ・ダイエットの経験は、ふたりともあるが、「挫折」している。やせる理由は、「食べ過ぎてやばい」(A)、「体を動かしていないので、やばい」(B)ため。

#### 援助交際について

- ・マスコミなどの報道については、「だめだと思う」し、「違う世界」であるという。
- ・周囲に援助交際をしている人はいる。その人に対してどう思うかとの間に、「いいんじゃないか」と答える。自分は、「怖い」し、「怪しい」から、援助交際はしないという。金は欲しいが、貧乏暮らしであれば、どうにかやっていけるので、そこまでしなくてもいいという。
- ・身近に援助交際をしている人がいても、「いいと思ってるんだったら、いい」ので、別に止めはしないという。
- ・Aは、制服を着て買い物をしていたときに、40歳くらいの男に声をかけられたが、断った。理由は、「気持ち悪いから」。
- ・売春についても、いけないとは思っているが、その人が良ければ「全然」構わないと。援助交際との違いはよくわからない。
- ・性の商品化については、「結婚とか、どうするんだろう」、「あとのこと考えると怖い」というが、「あなたの勝手」と、肯定している。

#### 男女平等について

- ・売春と男女差別の関係については、「そんなこといわれても困る」し、「そんな風におもうな」といい、「むかつき」をおぼえている。
- ・差別された経験は、「あるだろけど、忘れた」(A)「多分気にしてない」(B)。
- ・2人とも、生まれ変わるとしたら男になりたいという。理由は、男の方が「サバサバしてる」(A)「自由」(B)だから。女は「喧嘩とか」「イライラし」、「ネチネチしてて」いやだという。
- ・2人とも、「女の子だから~しなさい」と、うるさくいわれた経験がある。そのため男になりたいと思ったことがある。Bは、大人になったら、自分はそのようなことは

- 言わないという。・なりたい男の人のイメージは、「バンドマン」（A）。
- ・女らしいとは？の間に、同じクラスの友達のように、「騒がなくて静か」「みててかわいい」「花背負ってる」と答える。しかし、その友達は、男子としゃべらないため、Aは、そうなりたいとは思わないと考えている。
  - ・女らしくないのは、これも「授業中に冷やし中華を食べる」友達を引き合いに出す。だらいがないとは思うが、おもしろいので好感が持てるという。
  - ・男らしいとは、「かっこつけなくて、かっこいい」人。かっこつける人に対しては、「勘違いしてる」という。

### III-2 面接結果の考察

#### III-2-1 『援助交際』をどのように見ているか

##### (1) 『援助交際』とは—女子高校生たちの『援助交際』に対する定義

女子高校生たちは、『援助交際』について具体的にどのような行動をイメージしているのだろうか。「『援助交際』とはどんなことを言うの」という質問に対する彼女たちの回答は、金品を媒介にしているという共通点はあるものの、具体的な行動になると必ずしも一様ではない。「オヤジと呼ばれる人と、いろんなブランド品を買ってもらったり、・・・カラオケに行ったり」(12B)、「おごってもらったとか、洋服を買ってもらったとか、・・・」(4B)、「そのおじさんによっても違いますよね。お茶飲むだけとか、・・・お茶飲むだけだったら人助けですよね。付き合ってあげるっていう。そういうんだったら別にいいですけど」(16A)といったことから、「友達とかは、ご飯食べて、お金貰うのも『援助交際』だって言うけれど、でも、最終的にオジサンっていうか、男の人の立場からしてみれば最終目的はあるから、最終目的が達成されない限りは、『援助交際』って言わない」(9A)「『援助交際』っていうのは、H(セックス)してお金貰うことじゃないかな」(6B)と「セックス」の関係の有無で限定して考える女子高校生もいる。「(セックスを)しなくてもいいんでしょ。しなくともいい人もいれば、する人もいる。友達はご飯食べただけだって」(1A)という発言に代弁されるように、女子高校生たちの間でも、どこまでの行動が『援助交際』かについて定まっていないように思われる。

これに対して、一般にマスメディア等によって伝えられる『援助交際』のイメージは、セックスを伴うといったニュアンスを込めて使われることが少なくない。この点に関して、「最初、カラオケ行って、お金貰うだけで、身体の関係のないのが『援助交際』だと思っていたんだけど、・・・(報道などで)そういうエッチしちゃったりするのも『援助交際』にはいると、どこまでなのかな、と思います」(12A)と混乱を示す女子高校生もいる。

しかしながら、「『援助交際』とは何か」という問い合わせに対して、定義的に「お金を持って食事を一緒にしたり、カラオケに行ったり、洋服などを買ってもらうだけが『援助交際』」とするものも、暗黙のうちに、「やっぱ、危ないじゃないですか、もしか、その人が優しい仮面をかぶった悪魔だったら・・・」(1C)「お茶飲むだけだったらいいけど、でも1対1は嫌だ。友達と一緒にだったらいい」(2A)など、『援助交際』の背景に潜む危険な要素を暗黙のうちに感じ取っているようだ。

ところで、『援助交際』がセックスを伴うかどうかは、本質的な問題ではない。たとえセックスを伴わないものであっても、金品を媒介にして男女の関係を買う側と買われる側に分断し、女子高校生(最近では女子中学生も対象とされる傾向が見られる)に象徴されるように、女性の価値=若さ、といった伝統的構図を再生産するものである。その意味からも、『援助交際』は『性の商品化』の問題を抱合していると言えよう。

##### (2) 『援助交際』と『売買春』について

セックスを伴う『援助交際』は、その名称はどうあれ、売買春の新たな形態である。女子高校生は『売買春』についてどのように考えているのだろうか。『売買春』(一

般に『売春』という言葉が多く用いられているが、買う側の問題が欠落する危険性を考慮して、ここでは『売買春』という言葉を用いる。ただし、女子高校生との面接において、『売春』という言葉を用いたこともあったが、その場合には後で『売買春』として新たな説明を加えた。) という言葉そのものを知らなかつた女子高校生もいたが(「ばいしゅん? 何? ばいしゅんって。」(17A))、大半の女子高校生は言葉としての理解はあつた。

一つの典型的な回答は「それはそれでいいのかもしれないけど、私はしたくない。汚らしい。けがらわしい。・・・でも、その人たちはその人でいいと思ってやっているんだから、いいんじやん」(17B)、「いいんじやないですか。そういう仕事をしたい人がいるから。まあ、それしか手立てがないっていう人も、もしかしたらいるかもしれないし。・・・なんか、しようがないだろ、みたいな。そういう仕事やりたいひとがいて、客がくるから成り立ってんだろうっていう。」(3A)、といったもので、感覚的に自分は嫌だとしながらも、他人は他人だからと深く考えようとしない。

これに対して、「自分の体のことはすごいいけない・・・、別にH(セックス)することはいけないとは思わないけど、でも自分の体を売るっていうのかな、商売道具にするなんて良くないことだと思う。Hするっていうか、好きな人と本当に・・・Hするとかなら別にいやらしいことでも何でもないと思うけど、お金を得るために自分の体を売るとか、間違ってると思う・・・」(9A)、「良くないと思います。やはりなんか、武器にするようなものじゃないし、そんなに、やたらめつたらするようなもんじゃないから。・・・体って、商売にしたりとか、そういう事するためのものじゃない。・・・これから先の、子どもとか作ったり・・やっぱ、生きるためのものだと思うから・・・」(13B)、「頭を使って、それで、仕事をしてお金を得るって事は、その仕事をすることが、どっかを通じて、多分人の役に立てると思うんですよ。でも体を売るって事は、自分に、と、その人にしか利益がないから・・・」(13A)といったように、自分の体を商売道具にしたり、武器にすることは良くないとして、多少具体的に述べる女子高校生もいる。

こうした中で次の女子高校生は、『売買春』についての問題性について、社会と自分、女性と男性との関連性、さらに女性の差別にまで言及しながら考えており、今回の調査対象の中では特異なケースでもあつた。「それは、なんか、ずっと人間の歴史の中で、女性が支配されていることから解放されるために、いろんな事やってきたっていう、人間の歴史みたいのがあると思うから、どうして女性がこういう風に下に見られるかっていうたら、男に頼って生きていくっていうのがあると思うんです。お互いが人間、人間っていう同士で、人間って汚くて、いつもなんかあると性に走るじゃないですか。でも、そうじゃなくて、お互い男女関係なしに、人間同士で助け合っていくとか、そういう風に考えたら、女性も自立すべきだと思うし、女性が自立しないで、そうやって何か自分から体を売ってお金貰ってとか、そういう事やっている事自体が、女性差別とかも受けるんだと思うから・・・まあみんな同じじゃないからいろんな人がいるからしようがないけど、一方で女の人がキャリアウーマンとかで、ぱりぱり頑張って、会社の上とかに昇っていくのに、一方で、女性が道とかで手を振つて、なんか、男に頼って生きていくって足引っ張ってて、それが、なんか女性差別と

かの根源だから、そういうの止めなければいつ迄たっても差別みたいのは無くならないじゃないかと思う・・・」(4A)。

最後に、『援助交際』と『売買春』との違いについて、「『援助交際』と『売買春』とは必ずしもイコールではないと思うけど、でも似たようなものかな・・・でも、『援助交際』しているのは女子高校生だからイコールで結び付けられないんですけど・・・結局は、自分自身がどうしたいとか目的みたいのがないから、そうなっちゃうってのは同じだと思う。どっちも、何か似ているところもあれば違うところもある。女人人が買われることは似てるけど、女子高校生と大人っていう、違うじゃないですか」(11A)というように、『売買春』は大人の女性がおこなうもので、『援助交際』は女子高校生がおこなうものという違いを指摘するものがいた。さらに「『売買春』って言うのは、H(セックス)してお金をもらうもので、『援助交際』って言うのは、パパ活だ。それから、後から連絡取ったりして、1回きりじゃなくて、・・・援助をしてもらう。(愛人との違いについてという質問に対して)愛人は、愛ってつくから、愛がある。愛の人だから。『援助交際』には愛がない。」(6B)と『援助交際』の継続性を特徴づけて区別するものもいた。

### (3) 女子高校生の『援助交際』について

同じ世代の女子高校生として『援助交際』をしている女子高校生をどのように考えているのか、さらにそうした行動をしていることに対して友達としてどのように対応しているのだろうか。

基本的に大半の女子高校生たちは、傍観者の立場で自分と切り離して考えている様子が伺える。「やりたければやればって」(2AB)、「うーん、好きでやってるから。賛成じゃないっていうか、『どんどんやんな』みたいな、そういうのではないけど。」(5A)、「一回しちゃったら(セックスを)変わらないのかなっていう、そういう考え方の子がしてるんだろうなっていう程度で、『なんでそんなことするの』ってふうまでは思わないし、住む世界が違うんだなっていう程度にしか、思わない。・・・考え方方が違うんだろうなっていう程度。だから、私の考え方をその人たちに、要求っていうか、『こうするべきだよ』っていう気もないし。」(7A)、「本当に何かその子、何て言うんだろう、すごい仲いい子とかだったら、それでも止めるかもしれないけど、でも、何て言うの、仲良くなないって言うか、向こうも自分のこと何とも思っていないような人だったら、別にそこまでは・・・」(8A)、「そういうことしかできないから可哀相だなって・・・」(9A)、「その人だから、かまわないよ、こっちは」(10A)「私は何も関係ないし」(10B)、「すごいよね、違う世界って感じだよね」(12A)、「近くにいたとしても、うん、いいと思いますよ。・・・あー、おーいちょっと待ってよって言うかも、それはちょっとあるかもしれないけど・・・」(16A)、「その子が良ければ・・・」(18A)

ただし、こうした傍観者の立場は、自分が『援助交際』とは全く無縁であることから派生するものでもなさそうだ。今回の面接では、実際に『援助交際』にかかわったことがあるかどうかについて、直接聞き出すことができなかった。しかし、話の前後からあるいは同一の対象について複数の面接を繰り返して『援助交際』の経験があると判断される女子高校生も数人含まれていた。その女子高校生たちにしても、「やつ

ている子はやっている子で、いいじゃない」「うん、いいんじゃないですか、やっている子はそれで」といったように、傍観者的に他人事として話していた。

一方、マスメディア等によって報道される『援助交際』に対して、「私は、何か、結構、テレビとかで取り上げるのは、激しい人ばかりじゃないですか。だから、あんまりそういう人ばっか見て、女子高生、女子高生って、言って欲しくないなって思います。違う人だって、いっぱいいるのになって」(13B)、「でも、何か、女子高生イコール『援助交際』みたいに結ばれちゃうのは、やっぱ良くないだろうし、マスコミも確かにそういう女子高生っていうか、もう、何か、その、見て分かるじゃないですか、すぐ女子高生っていう、短いスカートに何か靴下がこうルーズとかいってるのを。それ何か、こう、結構もう当たり前じゃないですか女子高生で。だから、何か、全部が全部それに結び付けちゃうみたいなのは、そういう人ばっかりじゃないわけだし、あまりにもちょっと騒ぎ過ぎかなって気がするんですけど」(11A)などに代表されるように、マスコミの取り上げ方に不満を述べる女子高校生が多い。

この女子高校生(11A)の場合さらに「誰かに迷惑かけることがなくて自分で全部責任とれるんだったら、何か起こっても自分でそれを背負いきれるんだったら、全部もう人の勝手だけど。けど何か、女子高生ってのはこういうもんだみたいに社会の中でレッテル張られちゃうってのは、その一部の中、一部のせいで起こることだから、それは良くないかなーって思うけど・・・。」と、一部のせいで自分たちも迷惑をかけられていると話す。

さらに、「感覚的には私たちの世代って、きっと麻痺している。そういう、あんまりにもそういう報道がありすぎるのと、雑誌とかでもそういうのが与え前っていうか、絶対中学校の頃って、そういうのが出たりすると、恥ずかしいっていうのがあって、何か、本当嫌だなって思っていたけど、周りが平気でしたり、やってたり、見てたりするから、『ああ、そういうもんなのかな』って感じちゃって」(9A)と、マスメディアの過剰な報道によって自分たちが麻痺していることを指摘しながら、「テレビ出てる人たちばっかりっていうか、何か、おばさんとか話すると、必ずそういう目で見られるじゃないですか。だから、テレビの人たちはテレビの人たちだから、ああいう人たちはああいう人たちでいいと思うけど、でも、まだ、ね、普通の人がいるんだから、みたいな。何か、すぐ変な目で見られたりするから、あんまり、出て欲しくないなと思う」(9A)と日頃の憤懣を述べる女子高校生も少なくない。

前述した『売買春』問題を女性の差別にまで言及して述べた(4A)も、(自分の友達とかに『援助交際』やっている人がいたら)という質問に対して「少なからずつきあいをしている人だったら、私の価値観では、そういう『援助交際』っていうのは良くない事だと思っているから、だから、友達がやっているならやって欲しくないって思っているけど、でも結局決めるのはその人だから、とやかく言えない、うん、言えない。・・言いたいけど、言えない。もし言っちゃったら、それは相手にとって忠告、うん、忠告になるかもしれないけど、でも、結局、本当にわかる、なんと言ふんの、その人を納得させるっていう言葉が出ない限り、ただの口やかましく言ってるだけになっちゃうから、本当にその人の価値観を変えるっていう自信がなければ、別に言う必要はないです」と、価値観の違った友人に説得する困難さを指摘している。

### III-2-2 『援助交際』の動機についてーなぜ『援助交際』をすると思うか

今回の面接調査の対象となった女子高校生たちは、一部（前述したように直接『援助交際』の経験の有無を確認できなかつたため、話の前後から経験ありと判断されるもの）を除いて、実際の『援助交際』の経験はないと判断されるものが多かつた。従つて、『援助交際』の動機について、経験者として直接聞き出すことはできなかつたが、同じ世代の女子高校生としてその動機をどのように考えているのかを聞き出すことはできた。

結果的に、「お金のために」というのが、大半の女子高校生たちの反応であった。確かに、自らの身体を提供して（たとえ、セックスを伴わなくとも、一定の時間、自分の身体が拘束されるという意味で）、その見返りとして金品を受けることが『援助交際』であるのだから、「お金のために」という動機は否定できない。しかしながら、「お金のため」だけをもって『援助交際』の動機とするには、あまりにも単純過ぎるようと思われる。

たとえば、「女の子は体売って、お金もらう。で、男の人は体が欲しいからお金払つてる感じで……でも、何で、お金なんだろう。たまに、それでお金もらえるのもいいなって思うけど、そんなことやって友達に見られたら1番バカだよね。だったらバイトするよね」(8A)、「いったいそんなことして・・でも、お金が欲しいんだろうね、たぶん。私だったらバイトに行くな。働いて、お金はもらうものだと思う。楽していっぱいもらっちゃつたら、そしたらもう、そういうバイトしかできないでしょ。・・・ちょっともう普通に働けないでしょ。」(3A)、「たとえば、そういうおじさんとかにパンついていっぱいお金もらうよりは、何か、バイトして、お給料もらつたら、その方が、嬉しい。」(12B)、「私だったら、そんなにお金が欲しいんだったらバイトをするけど、こうした女子高生はバイトが面倒くさい。お金欲しさにする。そういうことするのは。そこら辺の違い。」(14B)、というようにお金のためだとしながらも、何故お金なんだろうと戸惑いを指摘するものも少なくない。

「そういう人って、いつも、ブランド品ばっかじゃないですか。だから、一個買うと、他にも多分、お財布買つたら、バックとかも欲しくなっちゃう」(13A)、というように、ブランド志向を指摘するものもいる。背景として、流行に遅れまいとする気持ちがあるのかもしれない。この点に関して、ある女子高校生は（『援助交際』をする子としない子の差は何だろう）という質問に「どこからきているのかは分かんないですけど、周りもやっているから私もやるっていうのが、すごく大きいと思うんですよ。それがどっからきてんのか分かんないですけど。だってみんなやってるじゃんって言ってやるのが大きいじゃないですか。その環境にいたら、みんなやってるからっていう中にいたら、私もやってみようかなーとは思うんですけど、私の場合、そういうのあんまりないから、やらないと思うんですね。どっから始まってるのかなーってのは分かんないですけど。そういう周りの影響ですよね。」(16A)と、周囲の影響を強く指摘する。

確かに、現代の女子高校生を取り巻く環境の中には、女子高校生をめぐる過剰なマスメディアの報道が満ちあふれている。その結果、こうした過剰な報道に踊らされている女子高校生も少なくない。その意味でも、マスメディアの影響を見逃すわけには

いかない。このことは、前述した「マスコミによって感覚が麻痺してしまっている」(9A)という指摘に結びつく。彼女はさらに、「昔はちっちゃい頃はそういうこと分かんないから、働いている人たちはみんな偉いなって思ってたけど、今、高校生がそういうこと報道されると、オバサンとかが大人の人はみんな私たちのことをそう思いますよね。その逆で、そうやってオジサンたちのことを報道してるから、私たちにとっては、社会の男の人は、みんなそういう、誰もがそんな感じなのかなって。」と大人の不信感にも繋がっている事を指摘し、「そういう、最近、そうやって、そういう話題が出てるのと同じぐらいの時期から、痴漢の人がすごい増えた」と考えている。

『援助交際』の報道と痴漢の増加が因果関係にあるかどうかは別にしても、女子高校生にそう考えさせること自体、加えて、大人に対する不信感にとどまらず男性に対する不信感を生み出しているとしたら、見逃すわけにはいかない深刻な問題と言えよう。「報道で、そういう話を聞くと『あー、すごいことやってんだな』とか思って、で、最初は、そういうのは『うわー』って批判的な目で見てたんだけど、それを何回も繰り返してると、『あ、またか』ってそれが普通になっちゃう」という発言は見逃せない。さらに彼女は、東京都の『援助交際』に対する条例化の動きに対して「何か、逆に恥ずかしいんじゃないかなって。・・出来る事自体が。っていうか、今まで出来なくても、ここ3年ぐらい前はそんなことなかった。そんな報道もされてなかつたら、ここ数年じゃないですか。そういうのが流行った、流行ったっていうと変だけど。っていうか、テレビに出すから、あるじゃないですか。流行り、変な意味で流行ってるから、真似する子とかもいると思うし。もう少し、取り上げなかつたら、絶対、数が減るんじゃないかなって。」とも分析している。

このように見えてくると、「お金のため」という理由は、あまりにも表面的な建前としての理由に過ぎないように思われる。豊かな時代に育ち、テレビや各種雑誌が過剰までに提供する華やかなブランド商品の情報に囲まれて育っている女子高校生にとって、物欲は限りなくエスカレートしていくだろうし、お金に対する執着も高められていく事は否定できない。だからといって、「お金欲しさに」と片づけられるものもあるまい。現に、「そんなことするよりも、バイトする」という女子高校生も少なくないのである。それでは、何が彼女たちを『援助交際』に走らせるのだろうか。

ここで一つの仮説的な背景要因として、『援助交際』にかかわることに対する得体の知れない「充足感」を指摘してみよう。実質的に『援助交際』は『売買春』と何ら違わないものである。にもかかわらず、『援助交際』という言葉には、『売買春』とは異なる「新しい」「若々しい」「時代に即した」といったニュアンスが各種マスメディアによって付加されている。現に、『売買春』は大人のもので、『援助交際』は女子高校生のものと区別するものもいる。さらに「お茶飲むだけだったら、人助けですよね。付き合ってあげるっていう。そういうんだったら別にいいんですけど。」(16A)と『援助交際』の『援助』にこじつけて合理化しようとするものもいる。「今時の女子高校生は」と『援助交際』に対して大人が(マスメディアが)嘆けば嘆くほど、彼女たちにしてみると、それは「今時」にほかならないのである。こうなると『援助交際』は「今時」を演出する恰好の場にもなってしまう。お茶やカラオケに付き合うだけでは済まない事を暗に知りつつも、それを認めようとせず、『援助交際』に付加

された肯定的なニュアンスにことさら同化しようとしているのではあるまいか。「食事だけ付き合って、後はドロンした」とか「ホテルに連れ込まれたが、相手がシャワーしている間に逃げてきた」という友人の話を語る女子高校生の中に感じたものは、「危ないから、自分は嫌だ」という感覚とともに「すごい、そんなこともできるんだ」といった一種の驚嘆にも似た感覚であった。もし、後者の感覚が当事者に少しでも伝わるならば、当事者にしてみると「今時」を演じているといった「充足感」も無縁ではなくなる。

こうした循環を断ち切るためにには、『援助交際』を単なる社会現象として「今時」化するのではなく、それ自体に含まれる問題性をきちんと提示することが必要である。そのためには、『援助交際』を『売買春』の一つの形態であることを明らかにし、『売買春』問題として考えなければならない。その際に、『売買春』すなわち『援助交際』が女性の尊厳を損なう行為であり、男女平等社会の実現に抗する行為であるといった視点が不可欠である。

### III-2-3 男女平等に対する女子高校生の意識

「(女性の就職が困難であることに対して)するい」(2B)、「彼氏に『お前、女だろ』って言われるとムカツク」(8A)、「女が働くのは、家事とかもしなければならないから大変」(14A)、「(就職で女子の採用なしに対して)ムカツク」(17B)と、具体的な話になると敏感に反応しても、それらを男女平等(男女不平等)の問題に結び付けて一般化してとらえることが難しい女子高校生もいる。「30歳以上の人には差別とか、ちょっとあると思いますけど、でも、高校生ってもうないよね。男女差別って言う言葉がもうないよね」(17A)という発言に象徴される。

「ミスコン」に対しても、「それは持って生まれたものだから、それを活かすってことはいいことだと思う。そういうのを持っていない人とかは、ちょっとかわいそうだけど、持っている人は、活かして。それは神様が決めたものだから」(1B)、「うらやましい」(10B)、「そこまでよく考えたことない。はい。」(13B)、「ああいう人って、まず自分が見せたいと思っているから、と私は思っているんですけど。・・うらやましいな、きれいな人。」(8A)というように、男女差別に結びつけてとらえるという発想が全くないものも少なくない。

こうした中で、『援助交際』や『売買春』を男女平等(男女不平等)の視点からとらえるということは、多くの女子高校生にとって難しいことなのかもしれない。『売買春』が女性の尊厳を傷つけ、女性の地位を低める行為ではという問い合わせに対して、ある女子高校生は「でも、だったら男が体売ってる店みたいのもあるですよね。ただ、供給と需要じゃないけど、需要が男の方が多いから、男が求めるから女が体を売る方が多くなってるだけで。それで目立ってるだけで。だから・・、尊厳とか思わないですね。平等にあると思います。」(16A)というように、男も体を売る事があるから女がどうしても平等であると考えている。さらにこの女子高校生は、東京都の条例化について「あー、それでいいんだと思わせちゃってる大人たちの社会が悪いから、大人を改善させるべきだって、そういう法案ができたっていう感じなんですか。そうですよね。どっちかっていう言えば、男の人の方が、買った人を罰した方がいいんだと思います。ただ、そういう買っている人がいるから女人の人もいるし、いなかつたら、そ

ういう商売っていうか、成り立ってなかつたわけだし。それで、だんだんお金欲しさに、高校生までも手出しちゃうっていうふうになってきたんですよね。」と語り、「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する「特に考えていない。でも、今の日本でそんな感じですよね。その相手にもよりますけど、でも、どっちかって言つたら、やっぱり私は家で、男の人は外でとは、自然に私もそう思います」と言う。

さらに別の女子高校生は、男女の差別を感じたことはないかという質問に、「うーん、あつたかもしんないけど、良く覚えてないです」(13B)としながら「差別差別みたいな感じで言われても、やっぱり、女側にも責任があるじゃないかなってのは、『援助交際』とかは、ほんとに、自分たちから仕掛けるみたいなのが、多分、殆どだと思うから、そういうのは、差別とかそういうのじゃなくて、ただ・・男だけに責任があるとは言い切れない。」と女側の責任を指摘する。社会の全体的な構造の中で男女平等を考え、その中で『援助交際』の問題をとらえることは難しいようだ。この女子高校生の場合にも「女のくせに、なんて言われたら、・・・そんなこと男も女も関係ないじやんみたいな。だから、区別しなくともいいようなところで言われると、ちょっとって・・」と具体的な場面での不満を表明している。

もう一人、「うーん、どんな状況でもやっぱり自分次第じゃないかって思うんですよ。私は恵まれちゃってるって思うからそういう人に比べたら、甘いっていうかそんなこと言える立場じゃないかもしれないけど。でも、そういう話とか聞いてたら、周りの世界とか状況とかそういうのじゃなくて、自分自身の考えがどうかっていう。どれだけ強く生きていけるかっていう、そういうんじゃないかな。」(11A)と、不平等は個人の問題で、その人の努力次第で解決できるものと主張する女子高校生もいる。この女子高校生は、『援助交際』の悪いことは、親の期待を裏切ったり親に迷惑をかけることだとしながら「お金で、丸め込まれちゃうほうが悪い。だって、結局はお金貰ってそういうふうに釣られちゃうわけだから、無理やりってわけじゃないし。それだったら、女の方がいけないんじゃないかな。」と、『援助交際』についても個人の問題であると考えている。さらに、「女のくせに」と言われることに対しても「あまり感じないです。私はまだ社会とかにでてないし、そういうこと分かんないけど。でも、少林寺やっててすごいと思うんだけど、スポーツとかやってると、女の人の方が力弱いじゃないですか。やっぱ、いろいろ考えてみると、・・女の方は力がないから違う方法で相手を負かす道をいくんです。・・・会社とかで働いてる人が聞いたら怒るかもしれないけど、違う方法で対等に立てるようにすればいいんじゃないかと思うんですよ。そのやり方がどうか分かんないけど、違うやり方で高い方にもつてける方法を、見つければいいのになつて思うんですよ。平等じゃない平等じゃないって言うけど。」と述べる。

こうしてみると、『売買春』の問題性について、社会と自分、女性と男性との関連性、さらに女性の差別にまで言及してとらえている前述した(4A)の存在は、極めて特異なケースと言えよう。しかし、たとえ特異なケースであったとしても、同じ女子高校生の世代の中にこうした視点で考えるものがいることは見逃せない。今後の女子高校生に対する大人の対応を考える上で、こうしたケースについてさらに分析することが有効と思われる。

#### IV. まとめと提言

30人の女子高校生の面接を通して、いわゆる『援助交際』に対して彼女たちがどのように考えているのか、『援助交際』に駆り立てる背景要因のいったんが明らかにされた。

先ず『援助交際』そのものに対する女子高校生たちのとらえ方を見ると、人によってかなり違いがあった。金品を媒介にした行為である点で一致しているものの、食事やカラオケ等と一緒にするだけといったセックスを伴わない行為と考えているものから、お金で体を売るといったセックスを伴う行為であるとするものまで、多様な考え方がなされている。特に前者の場合、いわゆる『売買春』とは違うのだと合理化して、気軽に『援助交際』に走らせる背景の一つになっている。「お茶飲むだけだったら、人助けだ」と語る女子高校生の心情は、こうした合理化を示すものといえよう。『援助』という言葉が、こうした合理化に拍車をかけているのである。

女子高校生と『援助交際』を考えるに際して、こうした問題を見逃すことはできない。こうした女子高校生のとらえ方とは別に、マスメディアが伝える『援助交際』は、多分にセックスを伴うといったニュアンスが濃い。しかし、『援助交際』がセックスを伴うか否かは本質的問題とは言えない。たとえセックスを伴わないものとしても、金品を媒介に買う側と買われる側に分断することは、男女関係を支配一被支配の関係に結び付けるものであり、女子高校生を対象とすることの中に、女性の価値=若さ、といった伝統的な差別構図を再生産するものである。まさに『援助交際』は『性の商品化』の問題を内包するものであり、女性の尊厳を傷つけ、男女平等社会の実現に抗する行為と言えよう。この点を曖昧にして、『援助』という言葉の持つ肯定的な意味合いに目を奪われてしまうと、単なる社会現象であるといった皮相的なとらえ方になってしまう。

女子高校生が『援助交際』に走る動機についても、「お金のため」といった理由は、あまりにも表面的で建前としての理由に過ぎないように思われる。豊かな時代の中で、満ちあふれるブランド商品に囲まれて育っている女子高校生にとって、物欲は限りなく高められている。その限りで「お金」は彼女たちにとって、最大の魅力の源泉でもあろう。ここでもまた合理化が作用している。「お金のためなんだから」「他にこんなに手っとり早くお金が稼げるものは無いから」といったことで、自らを納得させようとするのである。

しかし、さらにその背景として、『援助交際』にかかわることによる「充足感」が見え隠れしている。『援助交際』は実質的に『売買春』と何ら相違が無い。にもかかわらず、『援助交際』という言葉の響きには、『売買春』とは違った「新しい」「若々しい」「時代に即した」といったニュアンスがマスメディアによって付加されている。各種マスメディアが、「新しい風俗」「現代の若者たち」「現代の女子高校生」といった冠を付して『援助交際』を伝えれば伝えるほど、こうしたニュアンスが『援助交際』に付加されるのである。「今時の女子高校生は」と大人たち（マスメディア）が『援助交際』を嘆けば嘆くほど、彼女たちにしてみれば、それは「今時」に他ならない。こうなると、彼女たちにとって『援助交際』は「今時」を演出する恰好の場になってしまう。

面接において、「食事だけ付き合ってドロンした」「ホテルに連れ込まれたが、シャワーの間に逃げてきた」という友人の経験談を語る女子高校生の中に、「危ない」といった感覚とともに「すごい」といった驚嘆の感覚を感じ取ることも少なくなかった。こうし

た後者の感覚は、「今時」を演じている事に対する「充足感」に繋がるのではあるまいか。

こうした循環を断ち切るためにには、単なる社会現象として『援助交際』を「今時」化するのではなく、そこに含まれている問題性をきちんと整理して提示することが必要である。セックスを伴うかどうかにかかわらず『援助交際』は、女性の性を商品化する行為であり、男女関係を歪めながら女性の尊厳を損なわせる行為に他ならないことを明確化しなければならない。

こうした男女平等の視点から『援助交際』や『売買春』をとらえることは、女子高校生にとって、極めて難しい問題でもある。しかし、今回の面接を通して極めて特異なケースであっても、社会と自分、女性と男性との関連性、さらには女性の差別にまで言及しながら『売買春』や『援助交際』をとらえている女子高校生も存在していた。こうした女子高校生がどのようにしてこうした視点を作り上げてきたのかを分析することが、現代の人たちに課せられた課題と言えよう。その意味で今回の女子高校生の面接調査は、今後の分析のための方向性を示すものであった。今後、さらに個別的な面接を繰り返しながら、その成育過程を分析したり、さらにはランダム・サンプリングに基づいた大量データによって各種背景要因間の相関的・因果的分析を行うことが必要である。その際に、女子高校生だけでなく、彼女たちを取り巻く人的環境としての大人（特に買う側の男性や親・教師たちを含めて）の分析が必要であろう。

## あとがき

極めて限られた期間の調査研究であったが、改めて現代の女子高校生の抱えている問題の大きさやその背景要因の複雑さを認識せざるをえなかつた。今回の研究テーマである女子高校生と『援助交際』にしても、個々の女子高校生の意識の中で『援助交際』の定義は様々であり、今後さらに分析を進めていくためには『援助交際』そのものの定義をきちんと定めなければならない。その意味でも、当面『援助交際』はいわゆる『』付の概念としておく必要がある。

社会的に活躍する女性の増加とともに女性の社会的地位が高まりつつあるとはいえ、個々の社会現象を見渡してみると、男女平等社会の実現には程遠い感が拭いきれない。

『売買春』が後を絶たず、様々な呼称を冠しながら、あたかも「現代的」現象なる様相を呈していることもその一つである。いわゆる『援助交際』は、その典型と思われる。こうした社会現象の背景に隠れている問題性を一つ一つ暴いていくことが、現代を生きるもの的重要な課題ではなかろうか。特に時代を担う女子高校生にとって、この課題は大きな意味を持っている。

ところで、30人の女子高校生の面接記録を改めて読み返してみると、彼女らの語る『若者言葉』に閉口することが少なくない。「・・・しちゃったり」「それって分かんないですけど・・・みたいな」「・・・かも」等々と、断定した言い方をことさら避けて、あえて曖昧な言い方をしているとしか思えない。自分の考えをきちんと表明する訓練がなされていないのか、表明することで相手との軋轢が生ずるのを恐れているのか、上辺だけでも相手に迎合しようとしているのか、あるいは、表明するだけの自分の考えがきちんとまとまっているのか、いずれにせよ曖昧な表現であることには違いない。

こうした曖昧さが何によるのかは置くとしても(今後の研究課題でもある)、自分の意志を相手にはっきり伝えない限り、社会現象の背景にある問題性を露呈することは難しい。個別的な生活の中に埋没していたのでは、社会現象と自分とのかかわりが見えて来ないし、ましてや社会現象に含まれる問題性を明らかにすることはできない。社会現象を見据えるためには、お互い同士が議論し合うことが必要であり、そのためには曖昧な表現は有効でない。こうしてみると、女子高校生の語り方一つ取っても、その問題は大きなものとなる。

時代を担う女子高校生たちが、より良い社会を実現させるための戦士となりうるためにも、これらの問題を克服していくことが問われる。これは現代に生きる大人たちの責務でもあろう。30名の女子高校生たちの面接を通して感じたことは、彼女たちに対してなじうる大人の課題の大きさであり、その重要性でもあった。実際に面接を担当した女子大学生の一人は「面接を進めながら、教育とは何をすることなのだろうかと考えてしまった。今、知識を教えられても、生き方を教える大人はいないのではないだろうか。知識なんてものは、ある意味、教科書を読めば分かるものである。その知識をどう活用して生きていくかは、身近な大人が子どもたちに教えなくてはならないのだろう。知識と教育の分離が現代の学校教育の怖さであり、子どもたちに生きていくということに冷めた目を向けさせる原因になっているのではないだろうか。」(宇井美代子)と語る。

教育の難しさを改めて感じさせた面接調査であった。

1997年3月30日 福富 譲

(財) 女性のためのアジア平和国民基金

住所 〒107 東京都港区赤坂2丁目17番42号  
電話 03-3583-9322  
FAX 03-3583-9321